

新・岐阜県都市公園活性化基本戦略

令和3年3月

岐 阜 県

目次

I	はじめに	1
II	新戦略の策定	2
1	これまでの5年間の検証	2
	(1)戦略に基づく取組み	2
	(2)戦略に基づく取組みによる実績	3
	(3)コロナ禍における公園の取組み	9
2	次なる5年間の展望	11
	(1)県営都市公園の配置	11
	(2)社会情勢	12
	(3)ライフスタイル	18
3	新戦略	20
	(1)新戦略の骨格	20
	①今後の県営都市公園が果たす役割・新戦略のテーマ	20
	②実現に向けた基本方針	21
	③戦略の成果と新戦略の取組み	22
	(2)基本方針に基づく具体的な施策	26
	①岐阜のゲートウェイとしての機能強化	26
	②アフターコロナ社会における新たな生活様式への対応	29
	③成功体験の横展開による自走型運営	32
	④プロモーションの強化	35
	⑤社会的貢献の推進	37
	(3)各公園における重点的な展開	39
III	評価指標	47
IV	推進・検証体制	48
V	おわりに	49
	(参考)	50
	○公園運営のイメージパス	51
	○アンケート調査結果	55
	○収容キャパのシミュレーション	68

I はじめに

平成 28 年 10 月に「岐阜県都市公園活性化基本戦略」（以下「戦略」という。）を策定し、県営都市公園の持つポテンシャルに着目して、「観光振興の拠点として、交流人口拡大に貢献する公園」、「経済活動の活性化、県民活動の充実に貢献する公園」、周辺地域の地域資源と相互に連携することによる「ブランド力向上に貢献する公園」といった視点で取組みを進めてきました。

戦略の対象とした、花フェスタ記念公園（可児市）、ぎふ清流里山公園（美濃加茂市）、養老公園（養老町）、世界淡水魚園（各務原市）の 4 公園については、県外からの来園者が過半を占めるなど観光資源として高いポテンシャルを有しているものの、近年は入園者数の減少・停滞や施設の老朽化など様々な課題が顕在化してきたこともあり、この 5 年間、各公園の活性化に向けて戦略に基づく各般の施策を実行してきました。その成果として、各公園には、季節の花々、遊具、食をはじめとした魅力的なコンテンツが徐々に充実してきており、4 公園の入園者数は、戦略策定当初（平成 28 年度）の年間 621 万人から令和元年度には 86 万人増となり 700 万人を超えるに至りました。これは本県の観光入込客全体の約 15 パーセントを占めるものであり、今や県営都市公園は、本県の主要な観光施設として認知されてきていると言えます。

今般、策定から 5 年が経過し、戦略期間が満了することから、これまでの 5 年間に取り組んだ事業の検証と次なる 5 年間の展望を踏まえ、令和 3 年度から 7 年度までの 5 箇年度を対象とした新たな方向性と実施する施策を示す「新・岐阜県都市公園活性化基本戦略」（以下「新戦略」という。）を策定することとしました。昨今の県営都市公園を取り巻く環境の変化は凄まじく、コロナ社会の対応をはじめとした新たな挑戦についても、本県の実状を踏まえ反映しています。

各公園の基本コンセプトの具体化に向け、テーマと基本方針に基づき、より知恵と工夫を凝らしつつ、魅力を向上させた効果的な取組みについて他の県営都市公園への横展開を強化することで、一層の誘客効果を図ります。そして、地域の発展と活性化に資する公園施策や、アフターコロナを見据えた新たな取組みを通じて、これからの社会や生活、いわば新たなライフスタイルに対応した、さらにはその実現をけん引する公園づくりを進めていきます。

II 新戦略の策定

1 これまでの5年間の検証

(1) 戦略に基づく取組み

【岐阜県都市公園活性化基本戦略の特徴】

戦略では、本県が有する7都市公園（戦略対象4公園、岐阜県百年公園、各務原公園、岐阜メモリアルセンター）のうち、年間30万人以上の集客力を有し、かつ、県外からの入園者が過半を占めている4公園、すなわち、「花フェスタ記念公園」「ぎふ清流里山公園」「養老公園」「世界淡水魚園」に特に注力してきました。

県営都市公園を、県民の憩いの場としてだけでなく、「観光振興の拠点として、交流人口拡大」、「経済活動の活性化、県民活動の充実」及び「本県ブランド力向上」に貢献させるという視点に立ち、活性化への取組方針を明らかにするとともに、ハード・ソフトの両面にわたる具体策を定めた5箇年計画としました。

なお、戦略の策定及び進捗管理に当たり、公園に知見を有する幅広い分野の有識者からなる「岐阜県都市公園活性化懇談会」を設置しました。

【取組方針の設定】

4公園の個性を踏まえた基本コンセプトを定めるとともに、そこから導き出される共通の取組方針に基づき、各施策を進めることで、公園の持つポテンシャルを最大限に発揮させるだけでなく、新たな魅力の発見につなげてきました。

また、各公園が連携することで、更なる拠点としての役割を強化してきました。

基本コンセプト

花フェスタ記念公園	世界に誇るバラ園を中心に花による感動をつたえる
ぎふ清流里山公園	人と自然が共生する里山の暮らしと文化に親しむ
養老公園	健康長寿の願いと命への感謝が込められた自然と歴史をたどる
世界淡水魚園	川が育む豊かな自然と文化にふれ、生き物に親しむ

取組方針

料金無料化による入園者増と園内消費の拡大
公園の特長を表す名称への変更
年間を通じた固定客確保のための園内の環境整備
民間投資による公園の魅力向上

(2)戦略に基づく取組みによる実績

4 公園全体における令和元年度の入園者数は、戦略策定当初の平成 28 年度と比較して 14 パーセント増、86 万人増の 707 万人へと大幅に増加しました。

入園者の推移

単位：人

公園名	H28	H29	H30	R1
花フェスタ記念公園	407, 176	378, 466	382, 712	434, 957
ぎふ清流里山公園	264, 246	187, 050	703, 808	637, 764
養老公園	1, 115, 494	1, 204, 237	1, 246, 495	1, 366, 525
世界淡水魚園※	4, 420, 151	4, 529, 272	4, 627, 134	4, 631, 432
合計	6, 207, 067	6, 299, 025	6, 960, 149	7, 070, 678

※国営公園等を含めたエリア一帯の入園者数

出典：岐阜県調べ

また、4 公園における整備を中心とする主な取組実績は、以下の通りです。併せて、指定管理者による投資も相まって、入園者の満足度向上に寄与してきました。

○花フェスタ記念公園

H28	バラ以外の花による修景整備（ネモフィラ、スイセン）、 花の地球館エレベーター修繕
H29	花のミュージアム屋上緑化、ベルベデーレ木製格子更新、 国際園芸アカデミー実習フィールドの整備
H30	茶室壁補修、プリンセスホール雅人工芝更新
R1	ウェルカムガーデンの整備、モロッコ・ロイヤルローズガーデンの改修、 フォーマルガーデンの再整備（土壌改良と株の総入れ替え）、 花のミュージアム漏水工事、獣害対策フェンス整備、 夏季及び冬季の入園料に関する実証実験
R2	フォーマルガーデンの再整備（土壌改良と株の総入れ替え、アーチ）、 世界のバラ園の再整備（土壌改良と株の総入れ替え）、 大型遊具（幼児用、児童用）整備

○ぎふ清流里山公園

H28	里山の湯の改修
H29	入場門の改修、里山カフェ・テラスの整備、足湯の整備
H30	名称変更（平成記念公園からぎふ清流里山公園へ）と入園料無料化による リニューアルオープン、大樹の遊具の整備
R1	屋根付き広場の整備、トイレの整備
R2	駐車場の改修、建築施設の改修、中央水路の水量増改修

○養老公園

H28	ぼうけん広場遊具更新、橋梁補修、園路舗装補修、滝谷沿い転落防止柵設置、獣害対策フェンス設置
H29	テニスコート周辺整備、東屋更新、こどもの国プール修繕、トイレ改修、園内外灯等の更新
H30	園内トイレ洋式化、0～3歳児遊具新設、園内サクラ等植樹、養老天命反転地入りロバリアフリー対策
R1	万代橋トイレ改修、養老天命反転地リニューアル、園内サクラ等植樹
R2	幼児用遊具改修・親水広場整備（こどもの国）

○世界淡水魚園

H28	霧の遊び場水質改善、ろ過設備改修、バーベキュー跡地整備
H29	さかなの遊具改修、霧の遊び場ゴムチップ舗装
H30	中央水路改修、園路及び樹木照明更新、親水広場整備
R1	ギャラリー雨漏り修繕
R2	給水加圧タンク更新

指定管理者による主な投資

公園名	工事等名	完成年度
花フェスタ記念公園	バラロードのミニバラ装飾	H28-R2
	スマホアプリ等運用	H28-R2
	彼岸花植栽地の整備	H30
	レストラン直営化・改装	R1-R2
	キッチンカー導入	R2
ぎふ清流里山公園	インモーション（一人乗り2輪車）設置	H30
	3Dシアター設置	H30
	立体花壇	H30
	謎解きゲーム設置	H30
	電動トラムカー設置	R1
	アドベンチャーパーク&ジップライン整備	R1
養老公園	感情認識ロボット「Pepper」の運用	H28
	ボールプール設置	H28
	グラウンドゴルフ場整備	H29
	オープンカフェ設置、キッチンカー導入	R2
世界淡水魚園	BBQ施設の運用	H28
	商業施設のリニューアル・夜間環境整備	R1
	釣り堀設置、夜間環境整備、フードデリバリーシステムの開発・運用	R2

【花フェスタ記念公園】

最大の目玉でありつつも、老朽化し魅力が低下していたバラ園の再整備を進め、令和2年5月にはバラの絨毯を楽しめる「ウェルカムガーデン」がオープンしました。加えて、モロッコ政府の全面的な協力の下、モロッコの伝統的な庭園を忠実に再現した「モロッコ・ロイヤルローズガーデン」の整備や、「フォーマルガーデン」、「世界のバラ園」などのバラ株の入れ替えを進めています。また、新たなバラの鑑賞方法として、夜間にバラ園をライトアップする「ナイトローズガーデン」を開催しました。

一方、課題であるバラ以外の魅力を創出するため、ネモフィラやヒマワリを植栽するなど、新たな花の見所が定着しました。

それらに呼応する形で、令和元年度には、公園運営の本格的なテコ入れに着手するため、まずは閑散期対策として、夏休み期間中の入園料無料化を試行しました。入園者数は例年の2.2倍になるとともに、試行に併せて充実させた飲食物販が奏功し、園内消費も加速しました。そして、冬のバレンタインの時期には、入園者に園内で利用できる金券を配布することで、入園料の抵抗感を検証するための実証実験も行い、今後の方向性に一定の手応えを得ました。

その他、令和2年には、園内に大河ドラマ「麒麟がくる」の大河ドラマ館が設置され、新たな層の方が訪れました。



ウェルカムガーデン



ネモフィラ



ナイトローズ



モロッコ・ロイヤルローズガーデン

【ぎふ清流里山公園】

公園の特徴である「里山」を使用した新名称として、「平成記念公園 日本昭和村」を「ぎふ清流里山公園」に変更するとともに、入園料を無料化して、平成30年4月8日にリニューアルオープンしました。

それに合わせ、カフェや足湯を新設するとともに、同年10月には、公園のシンボルとなる和傘をモチーフとした大型遊具「大樹の遊具」が完成しました。リニューアル初年度は、入園料無料化や目新しさの効果もあり、前年度と比べ入園者が倍増（約70万人）し、入園料無料化分を上回る園内消費を生み出しました。その後、入園者数は予想を上回るペースで増加し、令和元年8月には、リニューアル後の入園者として100万人を達成しました。

また、令和2年7月には、雨天時でもスポーツやイベントを開催できる「屋根付き広場」が完成し、地域住民の活動の場として利用されています。

さらに、指定管理者の投資により、平成31年4月からアクティブに楽しみたい利用者層へのコンテンツ「大型ジップライン」の運用を開始しました。加えて、高速道路で飛騨地方や隣県にアクセスできる利点を活かすため、訪日観光客などもターゲットとした積水ハウス(株)とマリオット・インターナショナルによる「トリップベース道の駅プロジェクト」の宿泊施設を誘致しました。そして、令和2年10月に、全国に先駆けてPark-PFI手法によるホテル「フェアフィールド・バイ・マリオット・岐阜清流里山公園」が開業しました。



大樹の遊具



ジップライン



屋根付き広場



ホテルオープン

【養老公園】

入園者の利便性向上のため、平成30年4月より公園の駐車料金を無料化にしました。その効果は大きく、平成28年度は111万人だった入園者が、平成30年度には125万人、14万人の増加となりました。また、平成29年の東海環状自動車道・養老ICの開通も追い風となりました。

新たな取り組みとして、養老天命反転地に触発されたアートの展開を進めるため、情報科学芸術大学院大学（IAMAS）と連携し、平成29年度から毎年秋にアートイベントを開催しました。加えて、平成29年には「養老改元1300年祭」の会場として利用されるとともに、令和2年には「養老公園開園140周年イベント」を開催し、公園が地域住民の活動の場として更に深化しました。

ハード整備においては、平成29年度に6歳以上を対象とする児童用遊具、令和元年度に県営都市公園初の3歳未満児用遊具が完成し、設置済みの幼児用遊具を併せて、年齢層に切れ目なく誰でも遊べる環境を整備しました。さらに、滝谷周辺の屋外トイレの新設・洋式化やテニスコートの改修に取り組むとともに、令和元年度から訪日観光客の反響がある養老天命反転地のリニューアルを行いました。

その他、指定管理者の投資により、グランドゴルフ場やボールプールが整備され、入園者の満足度向上を図りました。



3歳未満児用遊具



トイレの新設



テニスコート改修



アートイベント

【世界淡水魚園】

平成 29 年度に整備した水遊び複合遊具「わんぱくフィールド」は、子どもが水に触れ合うことのできる遊具として、人気を博しています。令和元年度には、夜間や閑散期の集客強化のため、ライトアップの機能を有する「にじいろ噴水」を整備しました。

さらに、集客性の高いイベントとして、「楽園祭」を年 4 回開催するとともに、「かわしま燦々夏まつり」を周辺自治体などと連携して開催してきました。加えて、指定管理者の創意工夫により、手ぶらで楽しめるバーベキューをはじめとしたアウトドア体験の充実を行いました。また、移動動物園や大型迷路など魅力的な集客アトラクションの設置や、人気レストラン・ベーカリーの誘致など、積極的な投資を間断なく進めてきました。

年間約 50 万人の集客がある水族館「アクア・トトぎふ」では、国内外の淡水魚を多彩に展示する企画展を開催するなど、来館者を魅了してきました。

これらの取組みの結果、平成 28 年度に 442 万人であった入園者数は、令和元年度には 463 万人となり、約 21 万人もの増加を生み出しました。園内に観覧車や水族館といった大型のシンボル施設を有し、東海北陸自動車道の川島パーキングエリアと併設した、まさに岐阜の南の玄関口として、県内一の集客を狙える位置にあります。



水遊び広場



BBQ施設



にじいろ噴水



イタセンバラの展示

(3)コロナ禍における公園の取組み

令和元年度末から始まった新型コロナウイルス感染症の拡大は、県営都市公園の運営管理にも大きな影響を及ぼしました。最初に県の非常事態宣言及び国の緊急事態宣言が発出された令和2年4、5月には、ステイホームの徹底の観点から、公園の閉園措置を敢行しました。

緊急事態宣言の解除に伴い公園を再開しましたが、事前の関係者との調整の下、三密の回避などの対策を公園開園ガイドラインとして整理し、それに基づいた安全・安心な公園運営に努めました。マスク着用や手指消毒の徹底、感染警戒QRシステムなどの感染拡大防止対策を実施する一方で、コロナ禍を踏まえた新たな公園の運営にもチャレンジしました。

<非接触利用の促進>

○ドライブインシアターの開催

駐車場を活用し、密を回避し車内から映画を楽しめる「ドライブインシアター」を世界淡水魚園など3公園で開催

○フードデリバリーサービスの導入

世界淡水魚園において、屋外テーブルから園内にあるレストランのメニューをオーダーし、デリバリーしてもらえるサービス「あちこち食堂」をスタート

○キャッシュレス化

花フェスタ記念公園などの入園料支払いのキャッシュレス化の導入

<普及啓発>

○ミナモキヤラバンによるコロナ啓発

ぎふ清流里山公園など6公園で、チームミナモを活用したクイズや手作りマスクのワークショップなどコロナ啓発イベントを実施

<混雑緩和対策>

○施設の事前予約制の導入

世界淡水魚園の水遊び遊具において、事前予約制・利用人数制限を実施

○夜間利用の実施

ぎふ清流里山公園などにおいて、ライトアップ・イルミネーションによる夜間開園を実施

○施設の入館制限

アクア・トトぎふの入館者数をピーク時の半数に制限

<屋外空間の活用>

○オープンカフェの設置

花フェスタ記念公園において、ウェルカムガーデンを眺めながら飲食を楽しめるオープンカフェを設置

○三密を避けた屋外イベントの実施

養老公園の開園 140 周年記念イベントなどの開催に当たっては、広い園内を活用し、複数の小ステージを設けるなど、分散型の新たなイベントの形を提案

ドライブインシアター 【世界淡水魚園／養老公園／花フェス】

清流の国ぎふ「withコロナ」“再盛”イベントの一環として、駐車場に設置した巨大スクリーンで、自家用車から映画を鑑賞併せて、デリバリーシステムにより、車までフードを配達

【世界淡水魚園における開催結果】（8/10～16）

○利用者数 941台・2,737人
14上映中、12上映が完売



オープンカフェ設置【花フェス】

令和2年度春に新たにオープンしたウェルカムガーデンを眺望できるオープンカフェを設置

屋外で密を避けるだけでなく、一面のバラのじゅうたんを眺めながら飲食できる「新しい日常」の楽しみ方を提供



フード・デリバリー・サービス【世界淡水魚園】

公園内の屋外テーブルから食事を注文し楽しむ、公園フードオーダー・デリバリー（「あちこち食堂」）を開始

客数が減少している室内飲食店の購入機会を増やすとともに、「屋外の公園で食事を楽しむ」新たな価値を創出



夜間の公園利用の促進 【世界淡水魚園／養老公園／里山公園】

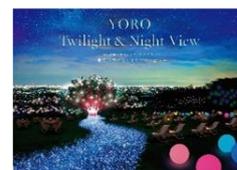
○世界淡水魚園

「にじいろ噴水」や「わんぱくフィールド」を、SNS映えする“ナイトプール”仕様に装飾し、夜間の公園利用を促進



○養老公園

清流の国ぎふ「withコロナ」“最盛”イベントの一環として行う養老公園140周年記念イベントにて、プロジェクションマッピング等のライトアップイベントを実施



○ぎふ清流里山公園

園内のライトアップ・イルミネーションを実施

2 次なる5年間の展望

(1) 県営都市公園の配置

県営都市公園は、その全てが県南部（美濃地域）に立地しており、愛知県・三重県という隣県からも近い距離に位置しています。高速道路網との親和性が高く、加えてリニア中央新幹線の開業で大きく観光利便性も高まることが予想されます。そのような視点から、中部圏の中核に位置し、「昇龍道」（中部地方の愛知・岐阜・三重・富山・石川を南から北へと縦断する新しい旅の観光ルート）でも龍の腹の部分に当たる観光拠点としての役割が期待されています。

また、リニア開業などによる交通アクセスの改善は、産業構造やライフスタイルの変化をもたらし、美濃地域が知的生産や価値生産の中核を担うことが期待されます。この際、県営都市公園は、人々に対して、「癒し」の提供の場、テクノストレスからの解放の場となり、その役割を果たす空間としてクローズアップされるものと考えます。



(2)社会情勢

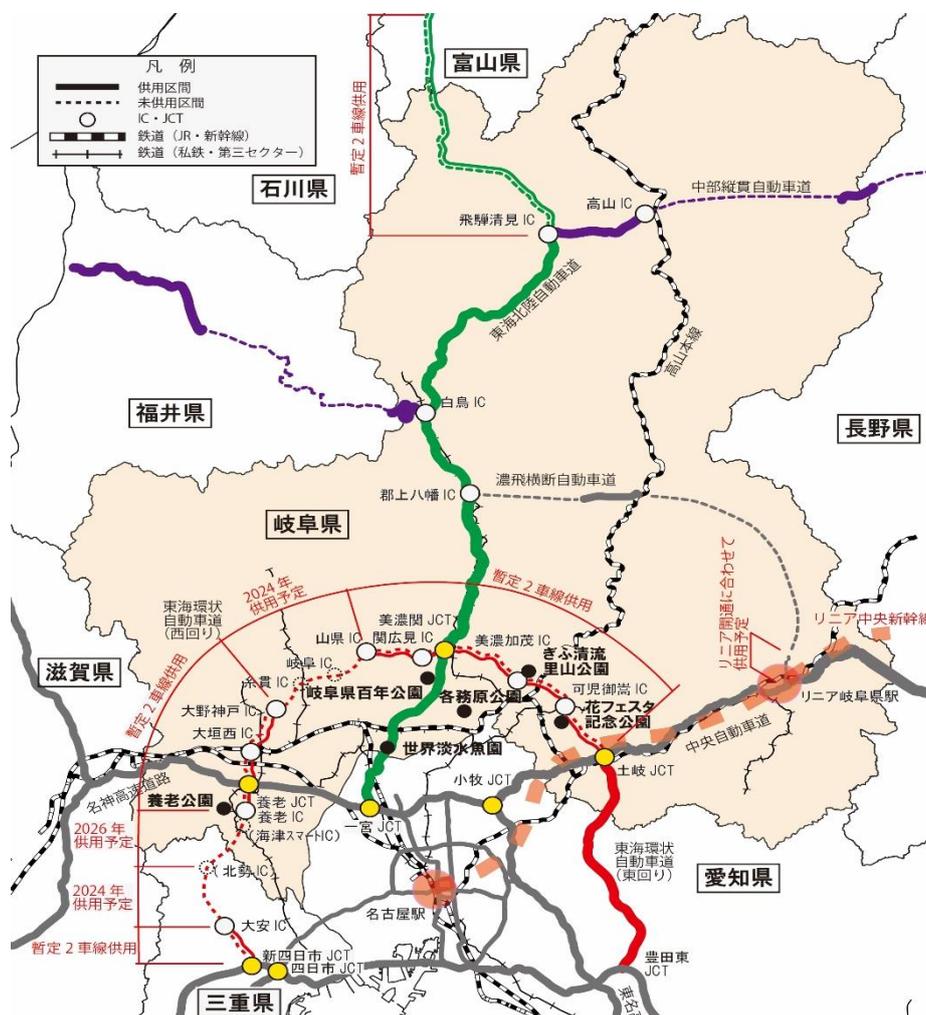
【交通インフラの整備】

県営都市公園は、その多くが高速自動車道に直結又はインターチェンジからほど近い位置に立地していることから、高速道路網の充実が公園利用にも大きく影響しています。実際に、最近の養老公園の利用者の増加には、東海環状自動車道・養老ICの開通も寄与しています。東海環状自動車道は、2024年（令和6年）には、県内のほとんどの区間で開通が予定されており、県内外の利用者の利便性の向上が期待されるところです。

また、2027年（令和9年）にはリニア中央新幹線の品川・名古屋間の開通が予定されており、中津川市に岐阜県駅（仮称）が設置されることから、東濃地域は時間距離的に首都圏の範囲に入ってくることになります。

このような、交通インフラの整備の進捗をしっかりと公園運営に享受できるよう、東海地域はもちろんのこと、首都圏、近畿圏らの誘客につながるような取り組みが必要となっています。

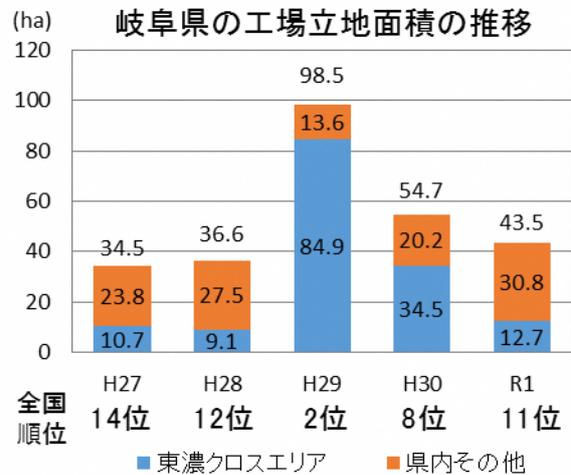
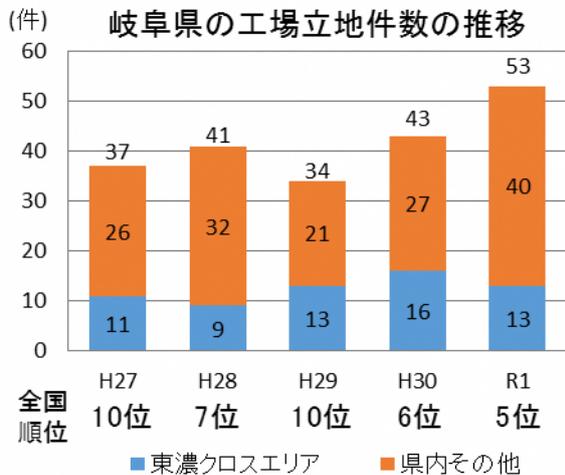
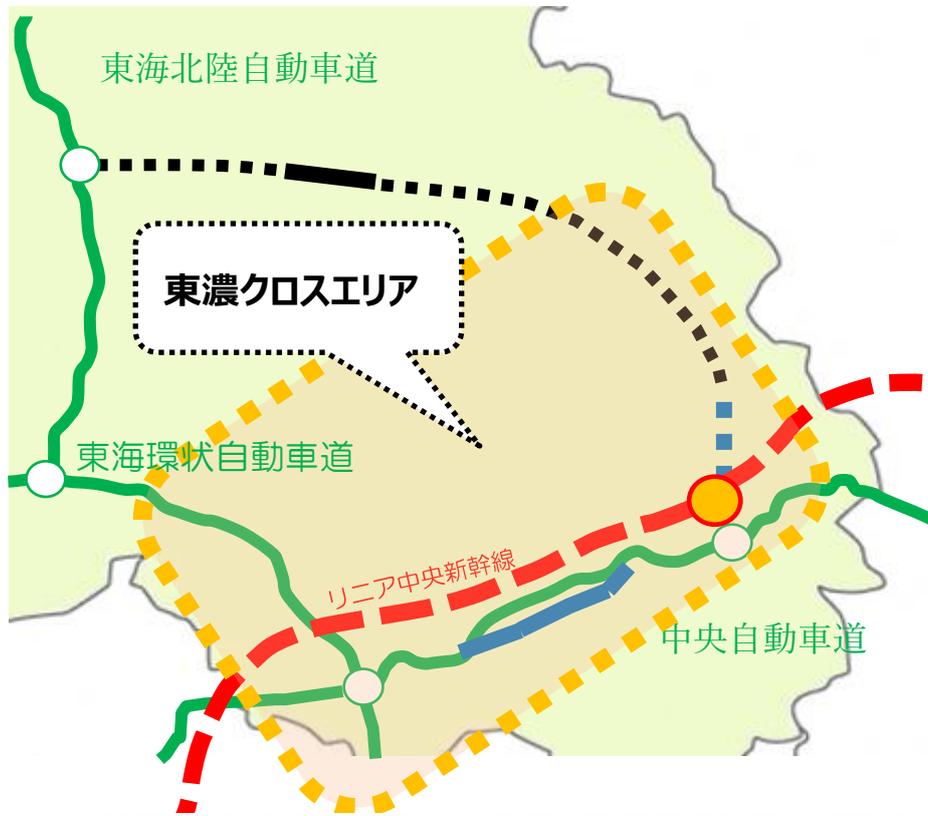
広域ネットワーク・インフラの整備計画



【産業の集積】

岐阜県内には航空宇宙産業をはじめとするハイテク産業が集積してきており、最近では東海環状自動車道と中央自動車道の結節点で、リニア中央新幹線沿線でもある「東濃クロスエリア」と称される地域において、大手企業の製造拠点や研究機関などの進出が始まっています。企業進出に当たっては、交通アクセスの良さに加え、豊かな自然環境、従業員の生活環境なども地域の選定理由となっています。企業・産業集積に伴う新たな居住者のニーズに対応するとともに、集積を促す要因となる都市公園づくりが必要となっています。

東濃地域概要図

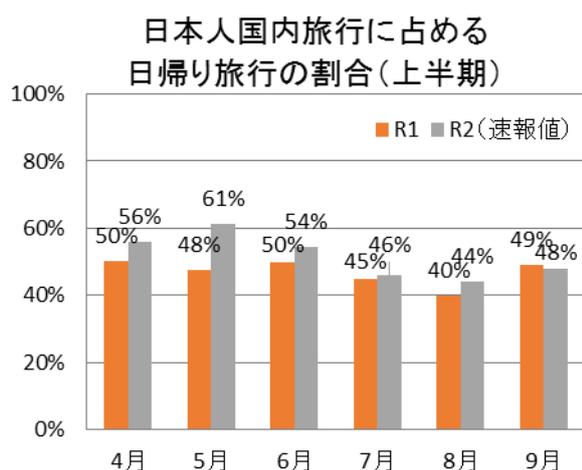


出典：経済産業省発表の確報値

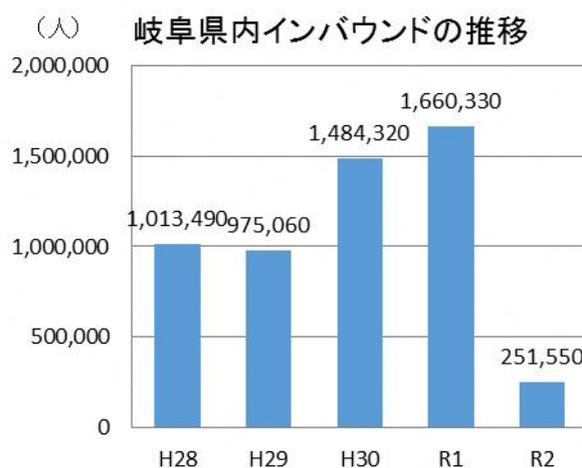
【観光交流】

令和元年度末からのコロナ禍での観光動向については、1、2 時間で行ける範囲の旅行、いわゆるマイクロツーリズムが注目されており、日帰り旅行の増加が顕著なことからもその傾向が伺えます。公園においても観光の近隣化から、その利用への対応が必要となっています。また、キャンプなどのアウトドア活動はコロナ禍において人気が高まっており、今後もその傾向が続くと予想されることから、公園も受け皿となることが求められています。

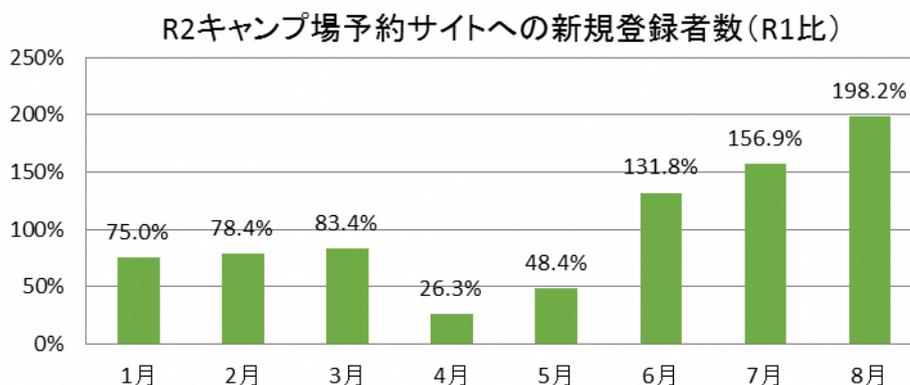
当然のことながら、アフターコロナを見据えた広域観光への対応も怠りなく進める必要があります。特にインバウンド（宿泊者数）については、現在、世界的な新型コロナウイルスの感染拡大により急激に縮小していますが、今の段階から訪日需要の回復を見据えて、SNS・地図アプリなどでの情報発信、関連地域との連携強化などを進めておく必要があります。



出典：観光庁「旅行・観光消費動向調査」より作成



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」より作成

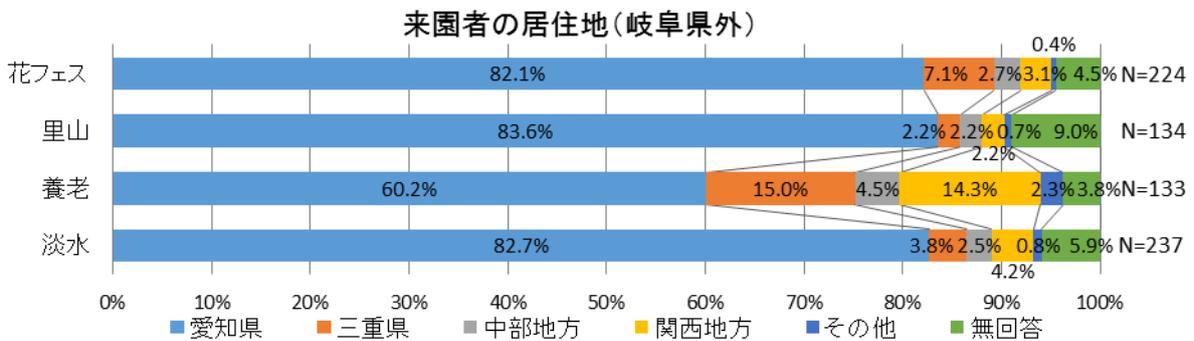
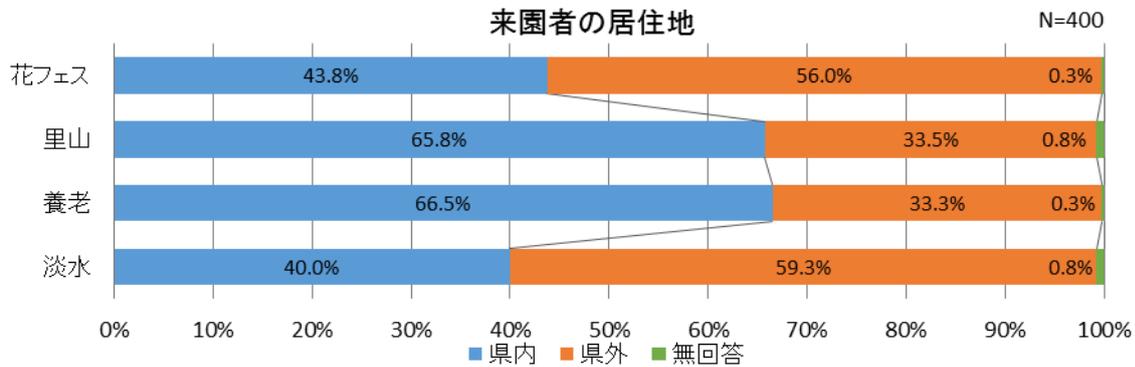


出典：キャンプ場予約サイト「なっぷ」(株)BCN ホームページより作成

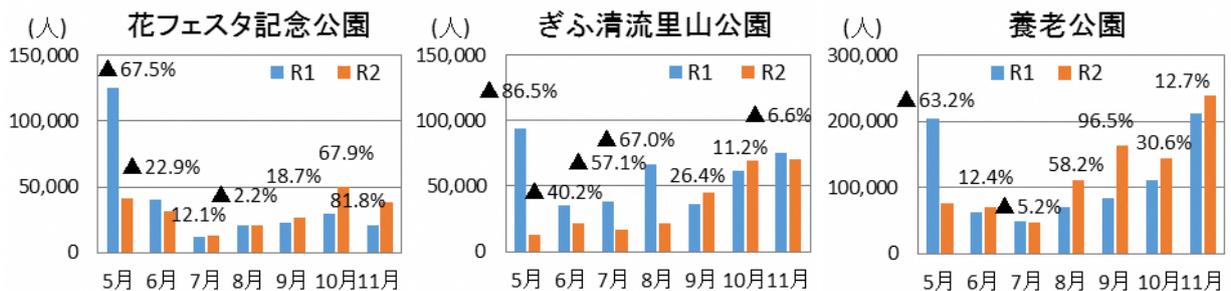
【県営都市公園の利用動向】

コロナ禍におけるマイクロツーリズムなど行動の近隣化は、これまで県外利用者が過半（約6割）を占めていた4公園のうち、ぎふ清流里山公園及び養老公園において県内利用者が急増し、概ね3分の2を占めるようになったことから明らかです。このような状況を踏まえると、これまで広域観光を重視していた公園においても、県内からの利用に対する需要に応じていくとともに、アフターコロナを見据え、愛知県をはじめとする県外からの利用者への対応も戦略的に進めておく必要があります。

また、感染状況が小康状態となった令和2年の秋季においては、公園は、青空の下、安全で安心して過ごすことのできる空間として選択され、例年並み又はそれ以上の利用がみられました。アフターコロナにおいて公園の存在を強く認識してもらうことで、これまで以上の利用が見込まれると予想されます。



各公園の利用者数



【スマート化社会】

近年、Society5.0 として、情報技術をはじめとする新たな技術を駆使した社会変容が進んできています。コロナ禍において、非接触や移動回避など感染リスクを低減する行動様式が推奨されることで、リモート、DXなど社会・生活環境の改革が加速度的に進展してきました。また、交通・観光の分野においても、新モビリティサービスであるMaaS (Mobility as a Service)、自動運転などの取組みが浸透してきています。

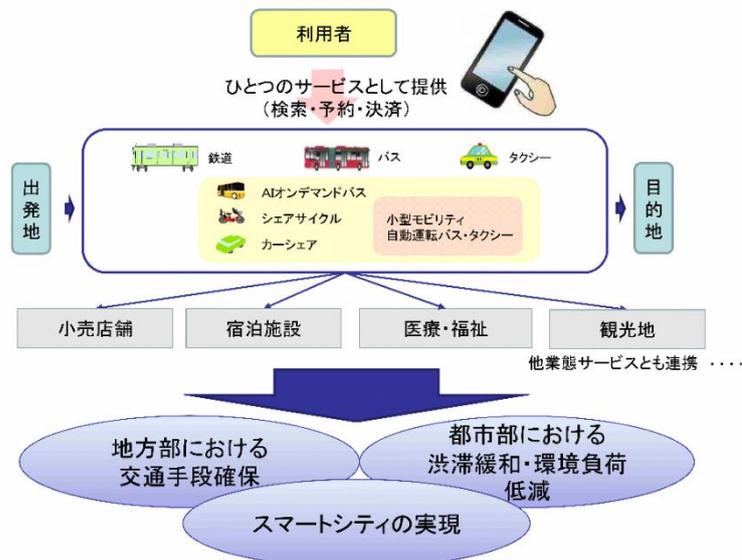
公園においても、有料施設における支払いのキャッシュレス化、スマホからのオーダー受付・デリバリーなどの取組みを導入してきていますが、今後は、密の回避をはじめとした利用管理、情報発信、園内交通などにおいて、先端技術の導入をモデル的に進め、新たな生活様式への対応を図っていく必要があります。

Society5.0 の例



出典：内閣府 web サイト (https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/)

MaaSイメージ図

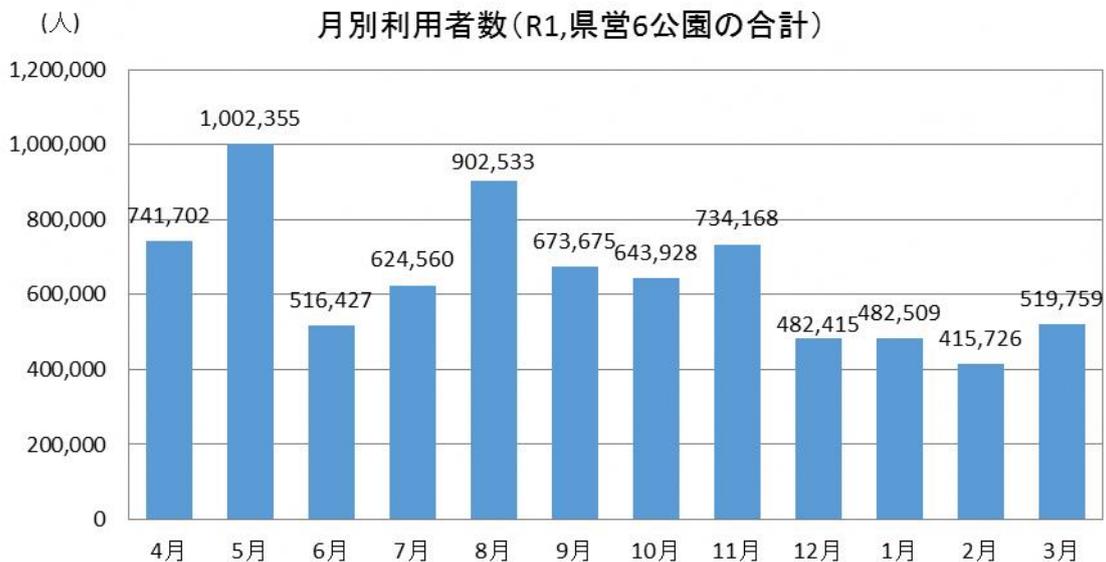
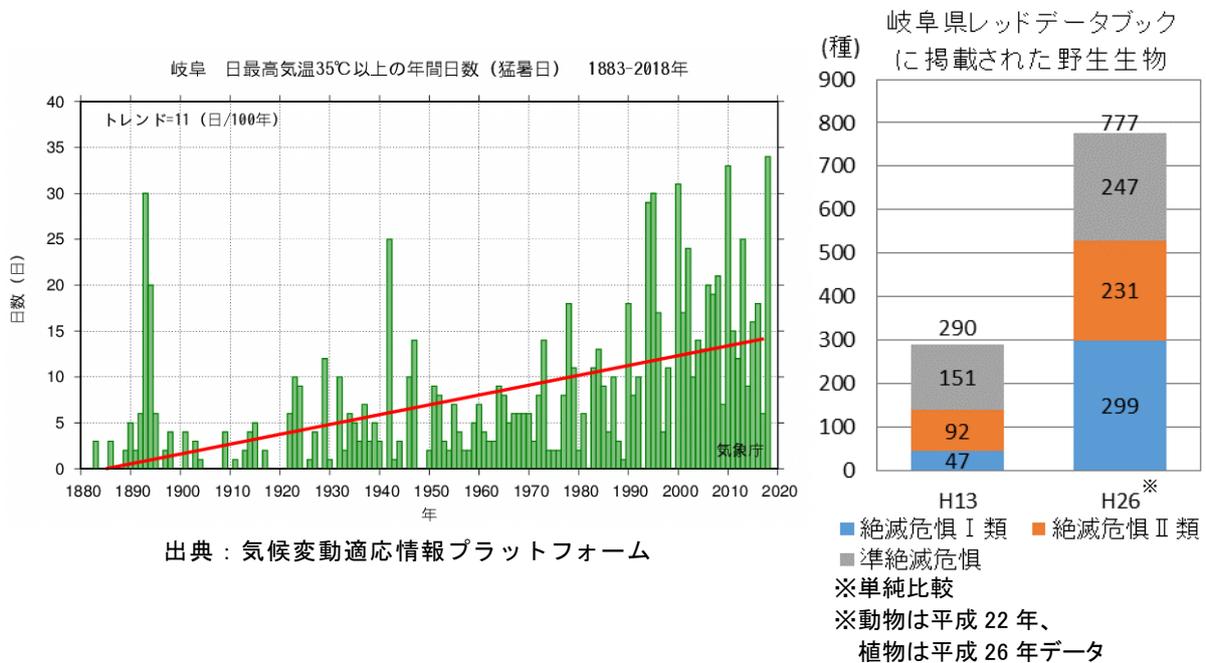


出典：国土交通省「都市と地方の新たなモビリティサービス懇談会」中間とりまとめ 参考資料

【気候変動と生物多様性】

岐阜県では夏季に最高気温が 35 度以上となる猛暑日が常態化するなど、公園利用に影響を及ぼす事象が顕著になってきています。夏季は、学校の夏休みやお盆休みなど多くの利用者を受け入れたい時期でもあることから、夜間利用や水遊び遊具の充実などの工夫が必要となっています。また、冬季において若干、利用が落ち込むため、季節に応じたイベントや花々による集客を図る工夫を進めていく必要があります。

生物多様性の保全について、県内で多くの野生生物が絶滅の危機に瀕しており、多様な生き物が生息している公園における種の保全活動や普及啓発などを進めていく役割も担っております。



(3)ライフスタイル

【コロナ社会の到来】

コロナ社会の到来、さらには、今後予測されるアフターコロナにおける社会や生活の在り方を踏まえると、これからのライフスタイルも自ずと変容してくるものと思料されます。

国土交通省都市局が令和2年8月にまとめた「新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性（論点整理）」を参考に、県営都市公園に結び付くであろう、これからのライフスタイルの見通しを以下の通り整理しました。

●都市構造・国土構造への影響

- ・職住近接ニーズの高まり＝郊外、地方都市にサテライトオフィス等の機能
- ・大都市で働きつつ、週の何日かは良好な自然環境を有する地方都市に滞在
→両方のメリットを享受できる複数拠点で生活するスタイル
- ・住む場所の制約の低下、ゆとりある空間で過ごすことへのニーズ

●生活圏（郊外、地方都市）の変化

- ・憩いの場としてのオープンスペース、テレワーク拠点、カフェ等仕事にも休息や余暇にも活用できる居心地の良い空間へのニーズの高まり
- ・子どもの育ちの場、他者との交流の場である遊び場の重要性の再認識
→生活圏の中での遊び場の発見（＝地域資源の再発見）の重要性の高まり

●緑とオープンスペースの利用形態の多様化

- ・自然の中等快適な場所で自由かつ健康的に働ける可能性の拡大
- ・健康づくりやストレス緩和効果の場としての再認識
- ・オープンカフェ、フィットネス等屋内活動の屋外への移行

●データ、新技術の活用

- ・新しいプレイスとしてのデジタル空間への着目
(①家、②職場、③第三の居場所)
- ・運動不足等による精神面、健康面での悪影響への懸念

【今後の都市公園の役割】

前述のこれからのライフスタイルを前提に、今後の県営都市公園の役割を以下の通り整理しました。

コロナ社会、アフターコロナ社会において、1) 地域経済の発展をけん引する観光・アウトドアライフの充実に加え、2) 健康増進や子育て、さらには、3) 労働環境や住まい方の変化への対応が求められてくると予想されます。都市公園において、それらの3つの視点をうまく調和させた施策の展開を図ることで、岐阜県におけるこれからのライフスタイルを都市公園において実現していきます。

●地域経済の発展

○多様な観光スタイル（ゲートウェイとしての公園）

◇広域観光の視点

- ・交通アクセスの改善による東海圏以外も含めた県外からの利用の促進
- ・滞在施設、情報施設等の充実による地域観光の周遊拠点化

◇マイクロツーリズムの視点

- ・近距離観光の受け皿となるよう、地元資源の再発見、活用を促進
- ・SNSや食等のツールを通じた地域の魅力のPR

○アウトドアライフ

- ・密を避けた屋外空間において、青空の下でのレクリエーションの推進
- ・従来屋内が中心だった活動（飲食、健康づくり、宿泊等）の屋外化
- ・ワーケーション環境の充実等働く場としての公園の活用

○地域経済の発展への寄与

- ・上記の取組みを通じた地域経済発展への寄与
- ・県産品を活用した商品・メニュー開発、岐阜ブランドの発信
- ・周辺地域資源（関連施設、交通、産業、自然環境等）とのつながりの強化

●健康・子育て

○安全で安心な環境として、健康、子育てのための公園の選択を促進

○屋外空間を活用したスポーツ、健康づくり、遊び場の充実

●労働環境・住まい方の変化

○リモート、テレワーク等の労働環境の変容に伴う時間的余裕に対応する公園

○地方居住や複数地域居住、企業誘致の呼び水となる魅力ある公園

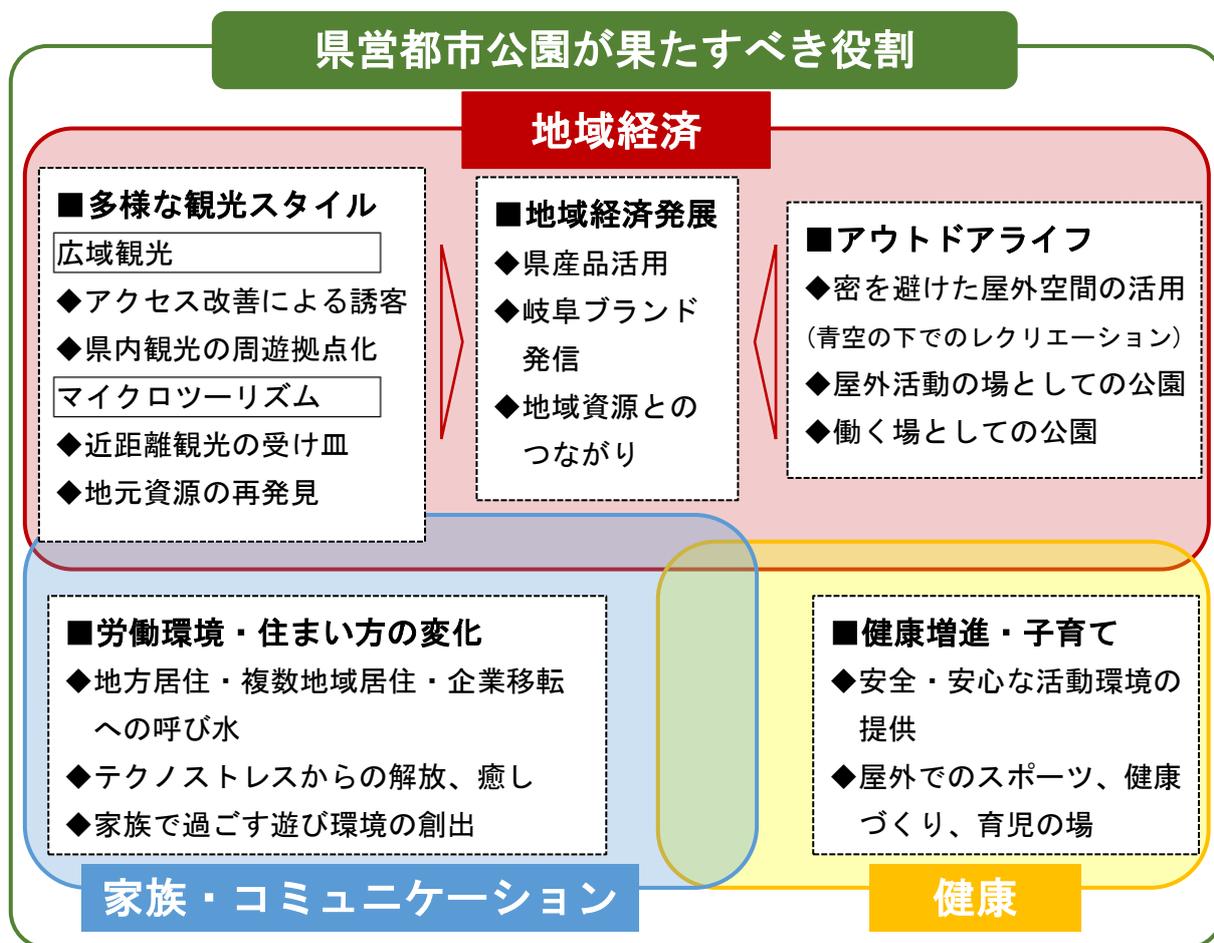
○テクノストレスの解消、癒しの場

3 新戦略

(1)新戦略の骨格

①今後の県営都市公園が果たす役割・新戦略のテーマ

下表は、今後の県営都市公園の果たす役割について整理したものです。「地域経済」、「健康」、「家族・コミュニケーション」という視点から、それぞれの調和、連携を考慮しつつ、テーマを設定し、県営都市公園が役割を果たしていけるような施策の展開を図っていくものです。



新戦略のテーマ

地域経済の活性化やアフターコロナ社会への対応を図る取組みを通じ、岐阜県におけるこれからのライフスタイルを実現

新戦略の期間

令和3年度～令和7年度

②実現に向けた基本方針

新戦略のテーマの実現に向けて、以下の通り5つの基本方針を設定しました。

今後の都市公園が果たすべき役割としての「地域経済」、「健康」、「家族・コミュニケーション」の視点をベースとしていますが、戦略下において一定の施設整備の進捗や管理運営の改善の兆しがみられていることから、新戦略においては、あらゆる取組みを踏まえた公園のプロモーションも注力すべき事項として取り上げることになりました。また、公園の存在価値である防災機能や環境保全機能についても、しっかりと取り組んでいくことを位置付けています。

実現に向けた基本方針

(1) 岐阜のゲートウェイとしての機能の強化

近隣から広域に至る幅広い利用者に「岐阜」を体感してもらう機会の創出に積極的に取り組むことで、地域経済の振興や交流人口の拡大の一翼を担う。

- 周遊拠点としての機能強化
- 県産品を活用した「食」の充実
- アウトドア活動の展開

(2) 安全・安心な空間・サービスの提供

アフターコロナ社会における新たな生活様式“ニューノーマル”を前提に、安全で安心して過ごせる空間・サービスの提供とともに、国土・産業構造や労働形態の変化への対応に取り組む。

- 暮らしの一部としての公園
- 新技術の積極的導入
- 癒しの場・健康活動の充実

(3) 成功体験の横展開による自走型運営の確立

戦略下でのソフト・ハード両面における成功体験の横展開により、園内消費拡大等につなげる管理運営の好循環を形成し、公園の「自走型運営」を確立する。

- ソフト・ハードにわたる集客力の強化
- 園内消費の拡大
- 民間投資の誘導

(4) プロモーションの強化

- 広域的な知名度向上
- ターゲット層の分析・設定
- イベントの展開

(5) 社会的貢献の推進

- SDGsの推進
- 生物多様性の保全活動
- 災害時の避難・復旧拠点

③戦略の成果と新戦略の取組み

【戦略】

戦略においては、施設の老朽化や管理運営の停滞などから十分に発揮されていなかった都市公園のポテンシャルについて、施設整備及び管理運営に対する県の積極的な投資や民間投資の受け入れ、新たな運営形態の導入などにより、その引上げを図ってきました。また、令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、コロナ社会に対応したイベントや施策の導入を図りました。

十分に発揮されていなかった公園のポテンシャル引上げのための積極投資と新たな試み

(1) 各公園の磨き上げ

ハード・ソフトへの積極的投資

- 【花】 バラ園の大改修、ナイトローズ、バラ以外の見どころ整備
- 【里】 全面リニューアル、シンボル遊具、屋根付き広場
- 【養】 こどもの国の遊具改修、トイレ充実、開園140周年イベント
- 【淡】 水遊び場等水景施設の整備

(2) 新しい運営手法の導入

入園料等の無料化による入園者数増と園内売上げの増

- 【花】 夏冬の無料化実証実験、キッチンカー導入
- 【里】 入園料無料化、名称変更、入園者増による園内消費拡大
- 【養】 駐車場の無料化

(3) 民間資本の導入

ホテル誘致、指定管理者の投資

- 【花】 キッチンカー導入・レストラン直営化など飲食施設の充実
- 【里】 ホテルの設置（P-PFI）、アスレチック遊具、新規テナント誘致
- 【養】 キッチンカー導入等飲食の充実、グランドゴルフ場の整備
- 【淡】 新規の人気テナントの誘致

(4) コロナ禍における対応

- ・ドライブインシアターの開催
- ・飲食施設の改善（オープンカフェ、キッチンカー、デリバリーシステム）
- ・コロナ普及啓発イベント

【新戦略】

新戦略においては、戦略の成果と実現できていない事項を踏まえつつ、5項目の基本方針について、以下のような具体的な施策を展開していきます。戦略下において、施設の充実については一定の進捗が図られつつあることから、今後は管理運営の充実やプロモーションの強化へとステージを移していきます。

岐阜のゲートウェイとしての機能強化とアフターコロナ社会への対応による新たなライフスタイルの実現

(1) 岐阜のゲートウェイとしての機能強化

地域経済の振興と交流人口の拡大の一翼を担う

【周遊拠点】 情報施設、滞在施設、地域周遊・連携プログラム

【食】 県産品を活用したメニュー開発、イベント展開

【野外活動】 家族での遊び、自然体験、屋内活動の屋外化

(2) 安全・安心な空間・サービスの提供

新たな生活様式や国土構造、労働環境の変化への対応

【暮らし】 ライフスタイルに対応した利用時間・利用空間の改良

【新技術】 公園案内アプリ、自動運転等の新たな技術の導入

【癒し・健康】 テクノストレスからの解放、健康増進活動の場

(3) 成功体験の横展開による自走型運営の確立

集客から園内消費拡大につながる好循環の形成

【集客強化】 名称変更、SNS活用、情報発信等の強化

【消費拡大】 新メニューの開発、ブランディング、体験プログラム充実

【民間投資】 滞在施設、アスレチック遊具、遊撃的施設

(4) プロモーションの強化

【知名度向上】 広域的かつ戦略的な広報展開、県の取組みの発信

【イベント展開】 分析を基に、集客・発信につながるイベントを開催

(5) 社会的貢献の推進

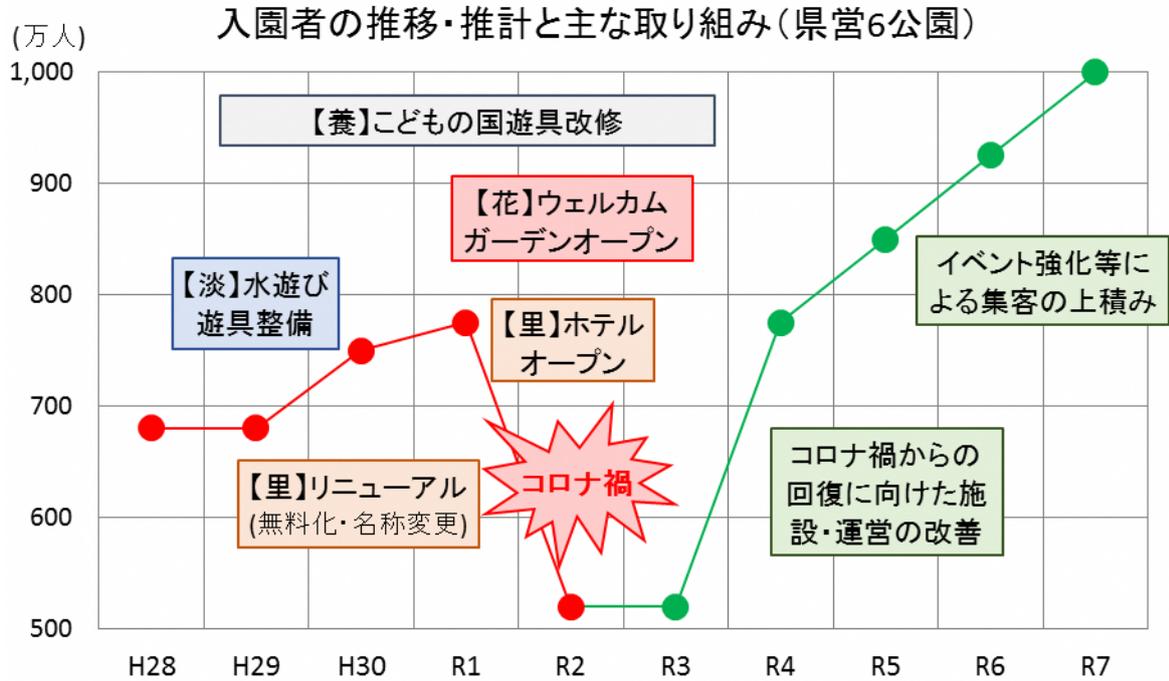
【SDGs】 住み続けられるまちづくり、陸の豊かな生態系の保全

【生物多様性】 希少種の保護・繁殖活動、普及啓発

【防災】 避難・復旧拠点としての活用

【入園者の推移・推計】

戦略策定時からの入園者数の推移・推計及び主な取組み事項については、以下の通りです。



(2)基本方針に基づく具体的な施策

①岐阜のゲートウェイとしての機能強化

近隣及び広域からの誘客を図り、公園において「岐阜」を体感してもらうことを通じて、地域産業の振興や観光交流人口の拡大に寄与する。

周遊拠点としての機能強化

- ・各公園における情報発信機能強化のため、デジタルサイネージを設置し、公園及び周辺施設のタイムリーな情報の発信と県外への広報強化
- ・キャンプ場等の滞在型施設の充実や既存施設の有効活用により、公園を周遊観光の拠点として活用
- ・公園を起点とする自転車等を活用した地域周遊プログラムの実施

県産品を活用した「食」の充実

- ・県ブランド農畜水産物や地元特産品である県産品を活用した飲食メニュー、スイーツ、土産物の開発により、公園でしか味わえないオリジナル感を創出
- ・キッチンカーや臨時売店をはじめ季節やイベントに的確に対応した飲食の提供により、利用者の食へのアクセスを容易化

広い園内を活かしたアウトドア活動の展開

- ・林間アスレチック、乳幼児向け遊具等あらゆる世代に対応した家族での遊び場としての環境を整備
- ・健康遊具、ウォーキング、ジョギング等健康づくりの場や屋外型のスポーツジムに類似した機能を充実
- ・ワーケーション、ドライブインシアター等屋内活動の屋外化を促進する取組み

【周遊拠点としての機能強化】

- ✓ デジタルサイネージなどを活用した観光情報の発信力強化【淡水・里山・花フェス・養老】
- ✓ 滞在型施設の活性化・有効活用【養老】、新規施設検討【花フェス】
- ✓ 自転車活用型公園発周遊観光のモデル事業【里山】



【県産品を活用した「食」の充実】

- ✓ 「食」の取組みをハード・ソフト両面から改善【全公園】
- ✓ 県産品の販売拡大につながる県産品活用型オリジナルメニューを開発・提供、キッチンカーなどによる即時的なサービス活用【全公園】



出典：ぎふの旅ガイドHP



【広い園内を活かしたアウトドア活動の展開】

- ✓ 飲食施設のオープンカフェ化、健康活動の展開【全公園】
- ✓ 滞在型施設などとの連携によるワーケーション環境整備【全公園】



※イメージ（環境省国立公園満喫プロジェクト有識者会議資料）

②アフターコロナ社会における新たな生活様式への対応

アフターコロナ社会における新たな生活様式“ニューノーマル”への対応を強化することにより、安全で安心できる空間としての価値向上を図るとともに、国土・都市構造、労働形態の変化を促す取組みを進める。

暮らしの一部としての公園

- ・夜間・早朝利用等、多様なライフスタイルへの対応
- ・低未利用区域や遊休施設の改良による、園内全体を活用した利用の密の解消
- ・利用者が少なくなる季節において、集客イベントの他、水遊び・屋内遊具、四季折々の花々の演出等により、季節に応じた利用を促進

癒しの場・健康活動の充実

- ・企業従事者が抱えるテクノストレスからの解放の場として、癒しの効果の発揮
- ・家族でのコミュニケーションの場としての環境整備
- ・心身ともに健康的な生活を送るための各種健康活動の充実
- ・豊かな自然的環境を活用した自然・農業体験プログラムの充実

新技術の積極的導入

- ・接触機会の低減、情報更新の即時性等の観点から、公園案内アプリや園内フードデリバリーシステムの開発導入を推進
- ・公園及び周辺施設との周遊促進のため、MaaSをはじめとした新モビリティサービスのシステム導入を検討
- ・園内交通関係で、自動運転、駐車場管理等新しい技術導入を試行

【暮らしの一部としての公園】

- ✓ 早朝又は夜間利用の試行【花フェス・養老・里山】
- ✓ 夏の水遊び空間の充実【養老・里山・花フェス・百年】
- ✓ 四季の花々など季節に応じた見どころの充実【全公園】
- ✓ 低未利用施設・区域の更新・活性化【淡水・養老・花フェス・里山】



夜間・早朝利用



真夏の集客



低利用施設・区域の更新



四季折々の植栽

【癒しの場・健康活動の充実】

- ✓ 乳児から児童まできめ細かに対応した家族で楽しめる遊具【全公園】
- ✓ 健康遊具、カントリーウォーク、サイクリングなど心身の健康増進に資する施設・プログラム【全公園】
- ✓ 農業体験・森林体験プログラムの充実【里山・百年】



【新技術の積極的導入】

- ✓ 「ICTモデルパーク」としての位置付け【花フェス】
- ✓ 1) 公園案内アプリ、2) フードデリバリーサービス、3) 園内交通の自動運転化、4) 駐車場のデータ管理などの新しい情報・技術を用いた運営管理の試行・導入【全公園】

公園案内アプリ

フードデリバリーサービス

園内交通の自動運転

※平城宮跡歴史公園（奈良市）での自動運転バスの実証実験

③成功体験の横展開による自走型運営

これまでの戦略でのソフト・ハード両面における成果の横展開を図り、管理運営における好循環の形成を通じて、自走型運営を確立する。

集客の強化

- ・名称変更によるコンセプトの明確化、料金体系変更等による公園のイメージの改善や価値向上
- ・魅力的な環境整備、商品開発を促進し、利用者によるSNSでの拡散広報を展開
- ・四季の花々の開花、公園運営の節目、立地等時間と場所のタイミングを捉えたイベントの開催

園内消費の拡大

- ・滞在時間の拡大が消費の拡大につながることを踏まえ、自然・農業・工芸等の体験プログラムの充実、四季の花々をゆったりと楽しんでもらうための演出
- ・観光利用者向けに岐阜を感じられる魅力的な商品開発を進める一方で、日常的な消費財の販売にも考慮
- ・集客イベント、人気施設に連動した遊撃的な飲食物販施設の展開

民間投資の誘導

- ・P-FI制度等を活用した民間事業者の発案・投資を誘導し、滞在、アスレチック等の収益が見込まれる遊戯施設の充実
- ・指定管理者の直営化、優良テナントの誘致等による高質化の推進により、レストラン等の既存施設を安定運営
- ・キッチンカー等民間事業者が低リスクで参入できる環境の創出

【集客の強化】

- ✓ 名称及び料金体系の変更【花フェス】
- ✓ SNSを意識した修景・装飾・商品開発【全公園】
- ✓ リピーター性の向上（花修景、日常商品）【里山・花フェス・養老】



← 投稿



出典：パン処わかお



SNSへの投稿

【園内消費の拡大】

- ✓ 体験プログラムの充実による滞在時間確保【里山・花フェス・百年】
- ✓ オリジナルメニュー開発と地域特産品の販売【全公園】
- ✓ 臨時売店・キッチンカーなど施設・季節に合わせた運営・店舗の改善【全公園】



【民間投資の誘導】

- ✓ 宿泊滞在施設・有料大規模遊具などの民間投資の余地を再確認【全公園】
- ✓ 継続的テナント誘致と参入環境整備【里山、花フェス、淡水】
- ✓ 臨時売店・キッチンカーなど民間が参入しやすい運営形態への改善【全公園】



④プロモーションの強化

県内はもとより広域的な集客につながる広報やイベントの展開を図り、県営都市公園、さらには岐阜県のイメージアップに貢献する。

広域的な知名度の向上

- ・名称の変更によるイメージ、わかりやすさの向上
- ・東海地域に限らず、関東・関西方面からの集客にもつながるプロモーション活動の展開
- ・SNS、地図アプリ等各種情報媒体の戦略的活用
(インバウンドも視野に入れた取組み)
- ・都市公園の戦略的な活性化に向けた県の取組みを幅広くアピール

ターゲット層の分析・設定

- ・これまでの実績やアンケート調査等から利用者の属性・行動の傾向を把握
- ・広報やイベントに合わせたターゲット層を分析・設定し、効果的なプロモーションを展開

イベントの展開

- ・四季の花々、紅葉等の自然的環境、公園運営の節目等をとらえたイベントの展開
- ・公園という開放性、収容能力を活用した各種イベントの開催や誘致
- ・広域からの集客、知名度向上につながる大規模で注目度の高いイベントの開催

【広域的な知名度の向上】

✓ SNS を活用した情報の発信【全公園】



【イベントの展開】

✓ 集客、知名度向上に繋がるイベントの展開【全公園】



出典：(公財)都市緑化機構HP

- 全国都市緑化フェアの開催事例と予定
R1：長野、R2：広島、R3：熊本
R4：北海道、R5：仙台

⑤社会的貢献の推進

公園が存在することによる価値としての環境保全、防災機能について、社会情勢を踏まえて的確に対応する。

SDGs^(※)の推進

- ・ターゲット 11.7:安全で利用が容易な緑地への普遍的アクセスを提供
- ・ターゲット 15.1:陸域生態系と内陸淡水生態系及びそれらのサービスの回復及び持続的利用を確保

世界農業遺産「長良川システム」の持続的発展に向けた「清流長良川あゆパーク」等との連携による事業及び情報発信



生物多様性の保全

- ・アクア・トトぎふにおける淡水魚に関する保全活動の継続実施
 - *木曽川に生息しているイタセンパラの種の保全活動
 - *東海三県のみで生息するウシモツゴの飼育（系統保存）
 - *タイ王国水産局・研究者等と連携したメコンオオナマズの生態の調査・研究
- ・百年公園における県博物館と連携したギフチョウの保全活動

災害対応

- ・地元市町、関係機関との協議において公園を避難場所、救助活動拠点、災害復旧拠点等とする場合は積極的に協力

※Sustainable Development Goals の略、2015 年の国連サミットで採択された 2030 年を期限とする先進国を含む国際社会全体の 17 の開発目標。全ての関係者（先進国、途上国、民間企業、NGO、有識者等）の役割を重視し、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指して、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むもの

【生物多様性の保全】

- ✓ イタセンパラ、ウシモツゴをはじめ、絶滅が危惧される数十種の保全活動【アクア・トトぎふ】
- ✓ 県博物館と連携したギフチョウの保全活動【百年】



【災害対応】

- ✓ 災害時の避難場所及び復旧拠点【里山、養老】



※イメージ・国交省木曾川上流河川事務所養老町水防訓練の状況
(国土交通省資料抜粋)

(3)各公園における重点的な展開

各県営都市公園の重点的な展開として、コンセプトと主要施策について以下の通り整理しました。

戦略において対象となっていた4公園はコンセプトを継続するものとし、岐阜県百年公園及び各務原公園については、それぞれの公園の特徴を考慮して新たにコンセプトの設定を行いました。

花フェスタ記念公園	「世界に誇るバラ園を中心に花による感動をつたえる」
	<ul style="list-style-type: none">・四季楽しめる花回廊の整備によるバラ以外の見所の充実・ワーケーションの実証・環境整備等新しい生活様式への対応・名称変更と料金体系の見直しによるプロモーション強化・情報発信、物販等のサービス向上のための西ゲート施設の改良
ぎふ清流里山公園	「人と自然が共生する里山の暮らしと文化に親しむ」
	<ul style="list-style-type: none">・道の駅、宿泊施設等との連携によるゲートウェイ機能強化・県産品や県郷土料理を活用した食の充実・里山の暮らしを実感できる自然体験、農業体験の充実強化・里川景観の創出と水遊び広場の整備
養老公園	「健康長寿の願いと命への感謝が込められた自然と歴史をたどる」
	<ul style="list-style-type: none">・眺望を活かした食空間の充実（楽市楽座・時計台改修によるテラス整備）・乳児から高齢者まで全世代が楽しめる遊具等の整備・パークゴルフ場等のリノベーションによる屋外活動の拠点機能の充実・イベントやSNSを活用した効果的な集客プロモーションの展開
世界淡水魚園	「川が育む豊かな自然と文化にふれ、生き物に親しむ」
	<ul style="list-style-type: none">・デジタルサイネージ整備等本県のゲートウェイ機能の充実・県産品の販売・PR機能の充実・屋根付き多目的広場の整備等多様な利用への対応・希少種をはじめとした種の保存活動、魚に親しむ場の整備充実
岐阜県百年公園	「緑豊かな空間で心身の健康を育む」
	<ul style="list-style-type: none">・ジョギング等健康づくり、リラクゼーションのための環境整備・自然の中でのアウトドア体験や遊具の充実
各務原公園	「子育て世代に安全・安心な遊び場を提供する」
	<ul style="list-style-type: none">・駐車場、トイレのリニューアル等ホスピタリティの向上・遊歩道の整備等散策環境の充実

新戦略における指定管理期間

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
花フェスタ記念公園	→		←		
ぎふ清流里山公園	→				←
養老公園	→	←			
世界淡水魚園 (水族館を除く)	→	←			
岐阜県百年公園	→				←
各務原公園	→				←

青色矢印は現指定管理期間、水色矢印は次期指定管理期間

花フェスタ記念公園

R3～7の 主要事業

- ・食（スイーツ・土産物）の充実
- ・センターコート等でのワーケーション実証・環境整備
- ・ライトアップなど早朝・夜間の活用促進
- ・人気の香りのバラ園拡充などテーマガーデンの一部再整備
- ・水景施設の利活用と遊具の整備
- ・花のタワー・地球館の食とイベント空間へのリノベーション
- ・公園案内アプリ、自動運転等の導入
- ・名称変更、料金体系の見直し
- ・西ゲートの施設改良（情報・物販）
- ・四季を通じて楽しめる花回廊の整備
- ・モロッコ・ロイヤルローズガーデン改修
- ・国際園芸アカデミーの機能移転の検討

開設日：平成8年4月26日

開設面積：80.7ha

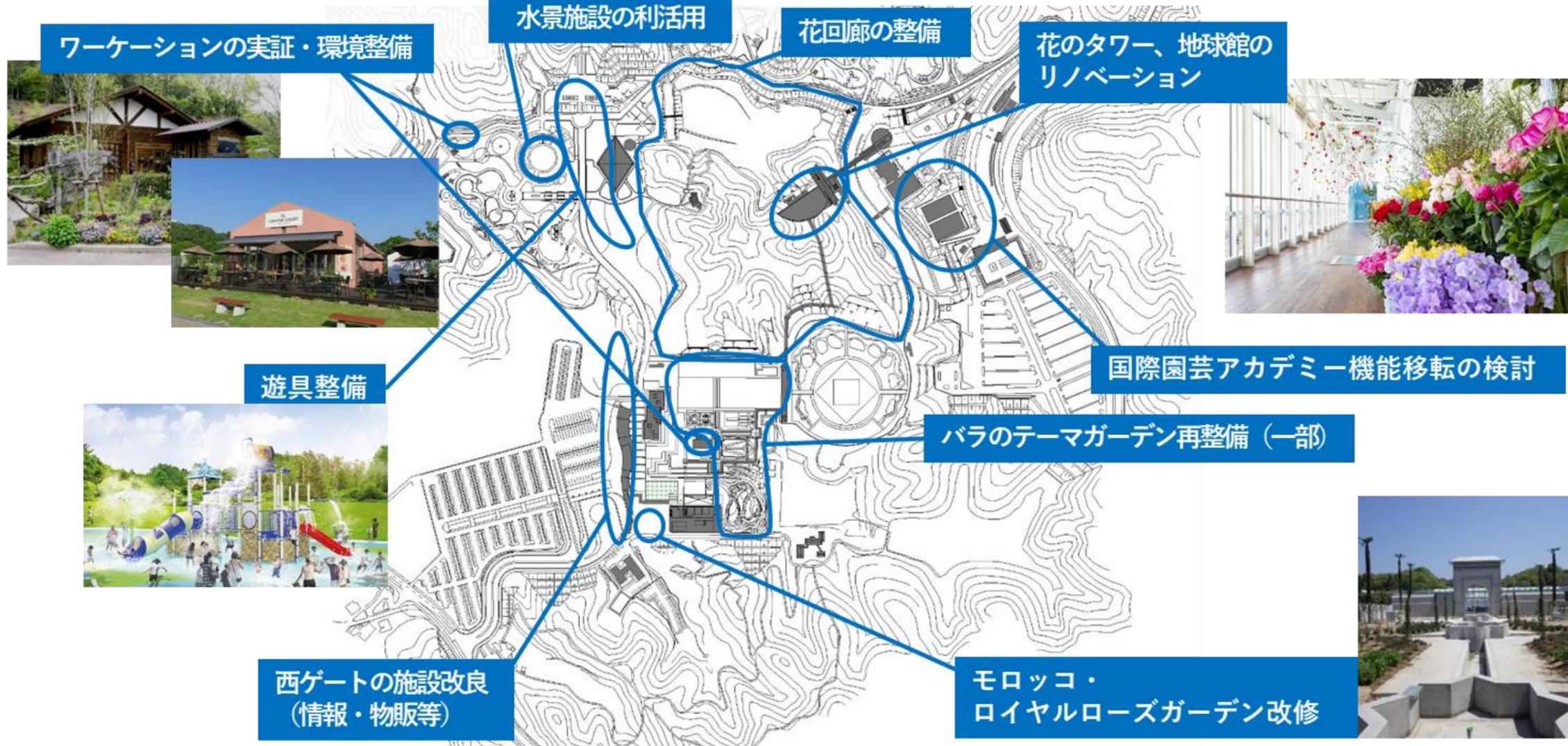
指定管理者：花フェスタ記念公園運営管理グループ(H28～R4)

	H28	H29	H30	R1	R2(4～2月)
入園者 (単位：人)	407,176	378,466	382,712	434,957	265,258

名称変更、料金体系の見直し

公園内アプリ、自動運転等の導入

食（スイーツ・土産物）の充実



ぎふ清流里山公園

R3～7の 主要事業

- ・道の駅、宿泊施設等との連携によるゲートウェイ機能強化
- ・県産品や県郷土料理を活用した食の充実
- ・入場門周辺のリノベーション、カフェでのワーケーション環境整備
- ・サイクルツアー等による周遊拠点としての活用
- ・里山体験、農業体験の充実
- ・里川景観の創出と水遊び広場の整備
- ・屋根付き広場の利活用
- ・複合遊具整備（幼児用、児童用）、動物広場改修
- ・北側未利用区域の活用と遊歩道の整備

開設日：平成15年4月16日
 開設面積：107.1ha
 指定管理者：ぎふ清流里山公園みらい創造グループ(H30～R6)

	H28	H29	H30	R1	R2(4～2月)
入園者 (単位:人)	264,246	187,050	703,808	637,764	354,134

※平成29年12月～平成30年3月 休園

入場門周辺のリノベーション (飲食スペース)



宿泊施設との連携



里川景観の創出と水遊び広場の整備
里山体験と農業体験



食の充実

サイクルツアー等による 周遊拠点としての活用



北側未利用 区域の活用



動物広場改修



複合遊具整備



屋根付き広場の利活用

養老公園

R3~7 の主要事業

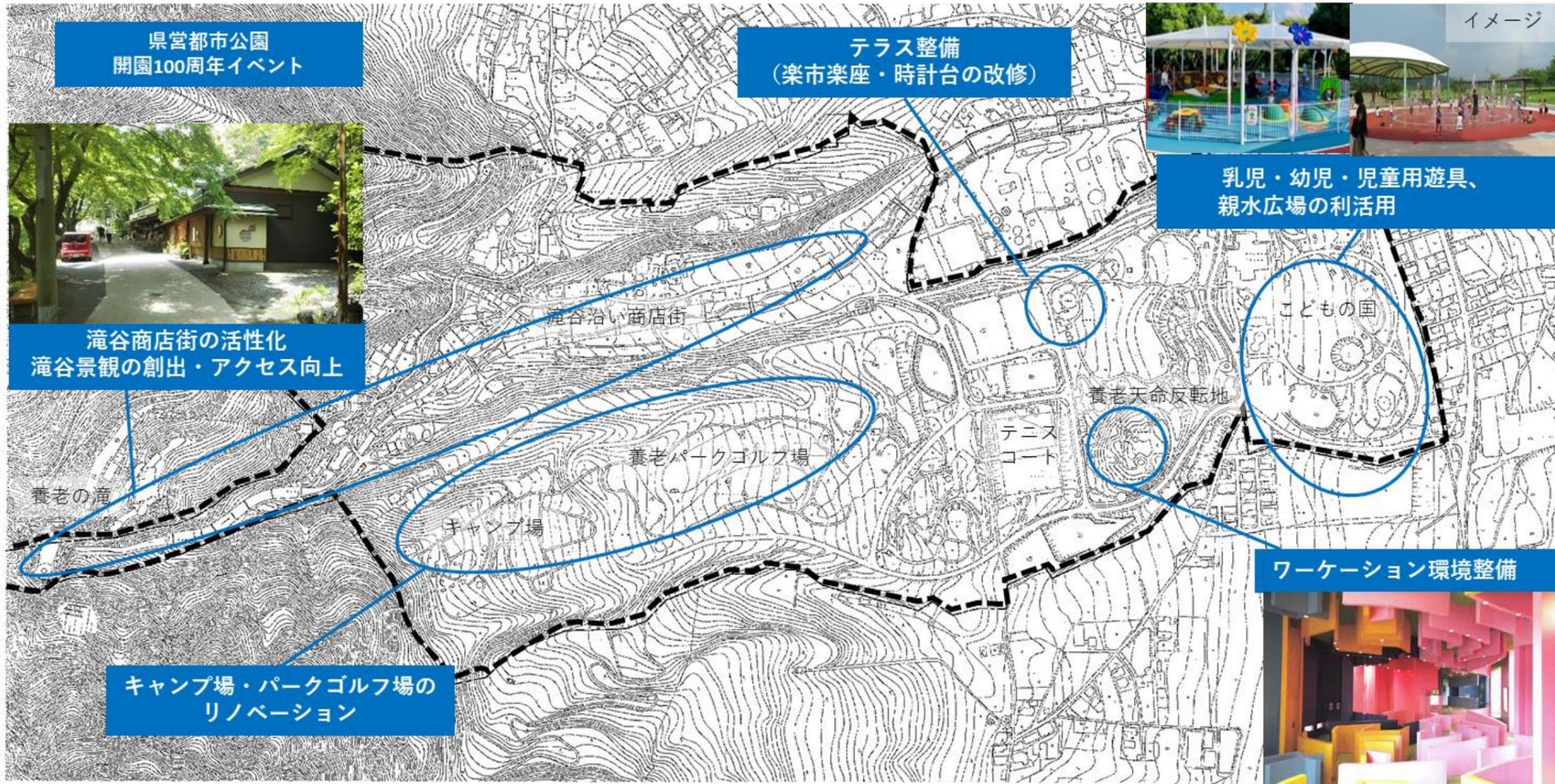
- ・養老天命反転地でのワーケーション環境整備
- ・眺望を活かしたテラス整備（楽市楽座・時計台の改修）
- ・イベントやSNSを活用した集客プロモーションの展開
- ・滝谷商店街・旅館の活性化に向けた総合プロデュース
- ・キャンプ場・パークゴルフ場のリノベーション
- ・乳児から高齢者まで全世代が楽しめる遊具等の整備
- ・滝谷景観の創出とアクセス向上
- ・県営都市公園開園100周年イベント（養老鉄道との連携）

開設日：明治13年10月17日

開設面積：78.5ha

指定管理者：イビデングリーンテック(株)(H27~R3)

	H28	H29	H30	R1	R2(4~2月)
入園者 (単位：人)	1,115,494	1,204,237	1,246,495	1,366,525	1,133,438
養老天命反転地 入場者 (単位：人)	136,761	141,944	125,166	119,637	74,667



世界淡水魚園

R3~7の 主要事業

- ・デジタルサイネージ整備によるゲートウェイ機能強化
- ・県産品の販売・PR機能の充実
- ・清流・魚に親しむアウトドア体験の充実
- ・都市の水際景観の充実・活用
- ・屋根付き多目的広場の整備とワーケーション環境整備
- ・児童用遊具の整備・改修
- ・希少種の保護・繁殖活動、環境教育活動

開設日：平成11年7月17日
 開設面積：3.4ha
 指定管理者：(株)オアシスパーク(H27~R3)

	H28	RH29	H30	R1	R2(4~2月)
河川環境楽園入園者 (単位：人)	4,420,151	4,529,272	4,627,137	4,631,432	2,563,695
水族館入館者 (単位：人)	506,252	480,169	494,384	490,080	233,803

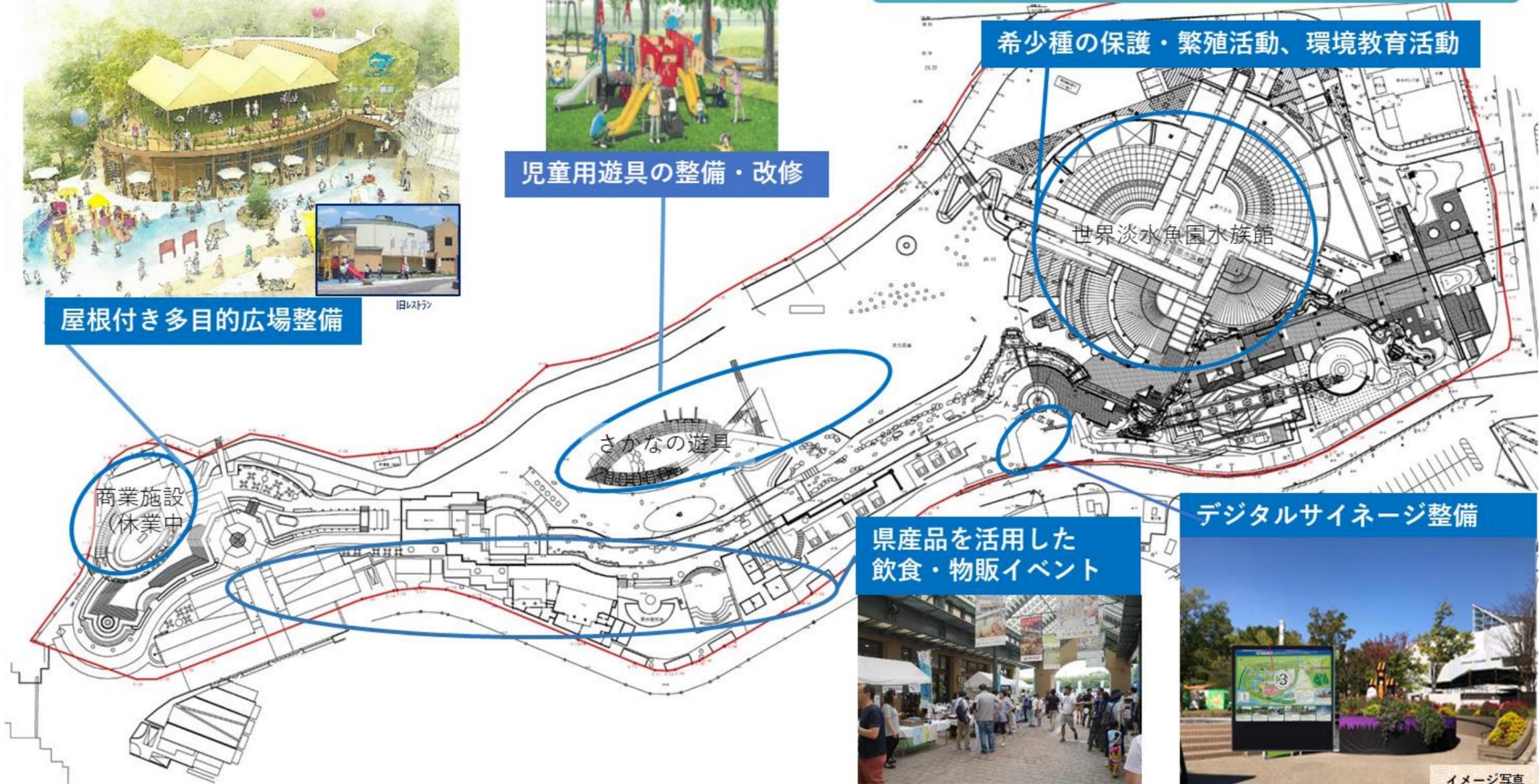


屋根付き多目的広場整備



児童用遊具の整備・改修

希少種の保護・繁殖活動、環境教育活動



県産品を活用した
飲食・物販イベント



デジタルサイネージ整備



イメージ写真

岐阜県百年公園

R3~7の 主要事業

- ・北入口での水辺景観の整備とワーケーション環境整備
- ・自然観察、アウトドア体験の強化
- ・散歩、ジョギング環境の充実、健康遊具の更新
- ・森林浴、リラクゼーション機能の充実
- ・トイレの改修・統合
- ・花菖蒲園・紅葉園・花木園の利用促進
- ・博物館・森林文化アカデミーとの連携

開設日：昭和50年5月5日

開設面積：100ha

指定管理者：昭和造園土木・名岐サービスJVグループ(R2~R6)

	H28	H29	H30	R1	R2(4~2月)
入園者 (単位:人)	515,973	430,543	480,352	558,114	459,642

北入口での水辺景観整備
ワーケーション環境整備

自然観察、アウトドア体験の強化
リラクゼーション機能の充実

周遊園路の充実

博物館・森林文化
アカデミーとの連携

花菖蒲園の利用促進

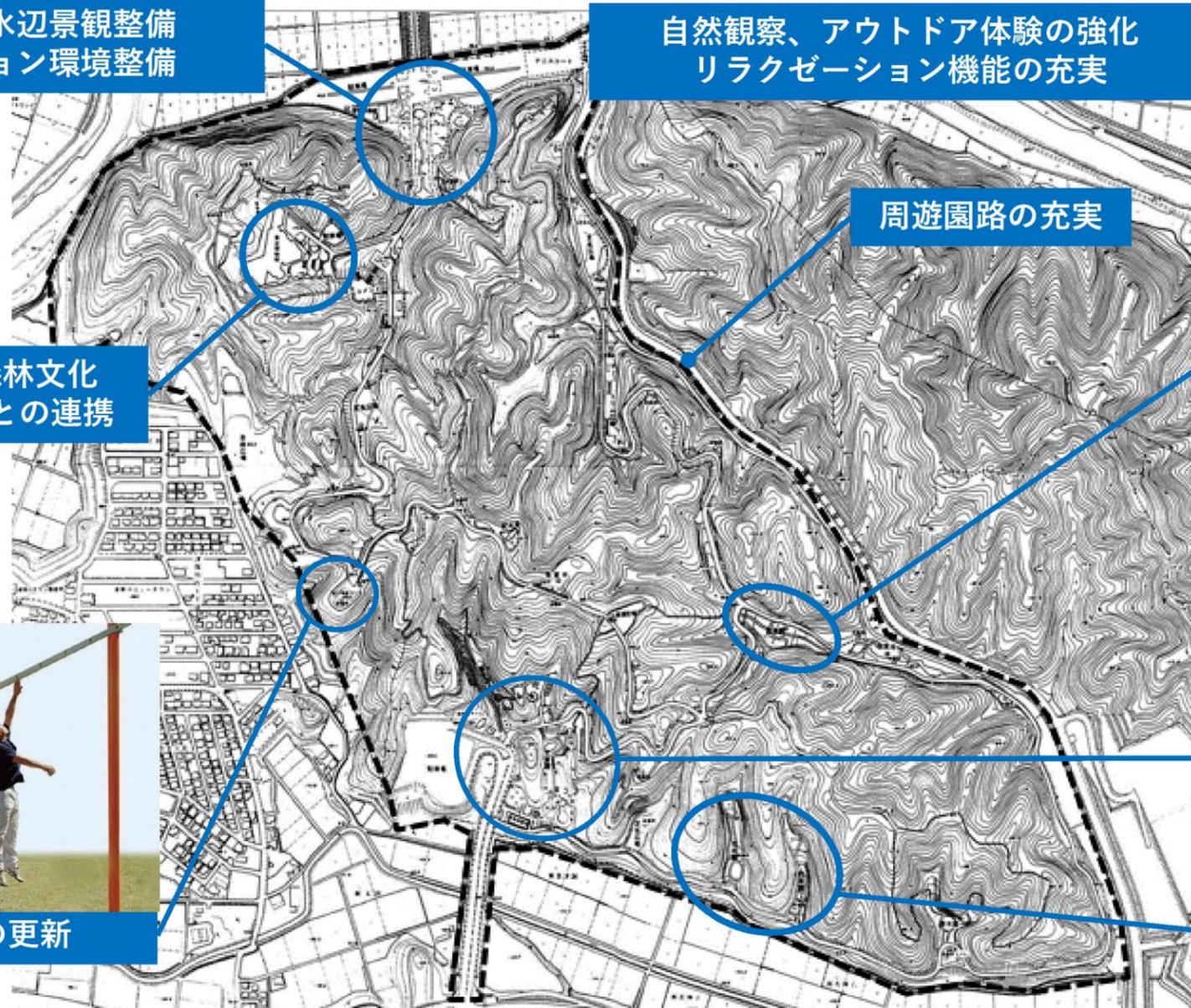
健康遊具の更新

トイレの改修・統合

紅葉園・花木園等
の利用促進



出典：(株)中村製作所



各務原公園

R3~7の 主要事業

- ・臨時売店導入等による親水広場の利活用強化
- ・遊歩道（山中散策路）など散策環境の充実
- ・駐車場、トイレ改良などホスピタリティ向上
- ・交通広場の利活用（ゴーカート、バッテリーカー）

開設日：昭和57年4月29日
 開設面積：10.2ha
 指定管理者：(株)技研サービス(R2~R6)

	H28	H29	H30	R1	R2 (4~2月)
入園者 (単位：人)	83,925	102,339	104,810	110,965	86,613



親水広場の利活用強化
(臨時売店、トイレ)



散策環境の充実



駐車場の増設



交通広場の利活用
(ゴーカート、バッテリーカー)

Ⅲ 評価指標

新戦略の進捗管理や成果管理を適切にわかりやすく実施するため、評価指標として、3つのアウトカム指標と、4つのアウトプット指標を設定しました。

1 アウトカム指標

- | | |
|-----------------------------------------------------------------|---------------------------|
| ○ 入園者数（6公園） | 774万人(令和元年度)
→ 1,000万人 |
| ○ 園内収入（指定管理施設及び指定管理者自主事業） | 令和元年度の20%増 |
| ○ SNS（インスタグラム）への投稿数
・「#花フェスタ記念公園」「#養老公園」
など公園の公式ハッシュタグを採用 | 20万件(令和2年度)
→ 100万件 |

2 アウトプット指標

- | | |
|----------------------------------------------------------------------|----------|
| ○ 新技術等への対応
・案内アプリ開発、自動運転実証、飲食の
デリバリー運営、キャッシュレス化 等 | 各公園2事業以上 |
| ○ 県産品の活用
・新メニューや土産物の開発、農畜水産物
や地場産品を活用したイベント 等 | 各公園2事業以上 |
| ○ 地域経済への波及効果
・地域資源、施設、団体等と連携した地域
活性化対策 | 各公園2事業以上 |
| ○ 環境保全への対応
・電気自動車充電設備の整備、ソーラー発
電施設の整備、電気自動車の導入、生物
多様性保全活動 等 | 各公園2事業以上 |

IV 推進・検証体制

学識経験者、花き振興、子育て支援、観光振興、報道、産業、公園所在首長、行政など幅広い分野の有識者からなる「岐阜県都市公園活性化懇談会」において、新戦略の達成度の検証を行います。

【岐阜県都市公園活性化懇談会 委員名簿】

氏名	役職
浅野 健司	各務原市長
伊藤 誠一	美濃加茂市長
今西 良共	岐阜県立国際園芸アカデミー学長
大橋 孝	養老町長
岡山 金平	岐阜県商工会連合会会長
加藤 孝義	岐阜県園芸特産振興会花き部会会長
菊本 舞	岐阜協立大学経済学部准教授
岸野 吉晃	岐阜県観光連盟会長
小島 紀夫	プロデューサー
富田 成輝	可児市長
舟引 敏明	宮城大学事業構想学群教授
古澤 達也	国土交通省大臣官房審議官
古田 菜穂子	岐阜県観光国際戦略アドバイザー
村瀬 幸雄	岐阜県商工会議所連合会会長
山本 博子	特定非営利活動法人ママズカフェ理事長
矢島 薫	岐阜新聞社代表取締役社長
山田 伝夫	中日新聞社岐阜支社長
若松 浩文	株式会社ランド代表取締役
涌井 史郎	岐阜県立森林文化アカデミー学長

(五十音順・敬称略、令和2年度末現在)

「岐阜県都市公園活性化懇談会」は、県営都市公園の活性化を目的に平成28年1月から12回にわたり開催されました。なお、新戦略策定に当たり令和2年度には、第10回(9/16)、第11回(12/15)及び第12回(2/9)で議論いただきました。

V おわりに

令和元年度末からのコロナ禍において、生活・社会さらには国土の在り方は大きく変容してきています。その中で都市公園は、安全で安心できる空間として改めて注目が集まっています。

今後の都市公園は、従来その役割とされてきたレクリエーション、景観形成、防災、環境保全といった狭い意味での「公園」という限られた空間を超えて、観光や食をはじめとした地域経済のけん引役、宿泊等滞在拠点、地域資源との連携など、新たな発想での運営が求められており、また、それが可能でもあります。

新戦略に基づき、「岐阜のゲートウェイ」としての機能を果たせるよう、民間資本も積極的に活用しつつ様々な施策にチャレンジするとともに、アフターコロナ社会や将来のリニア中央新幹線の開業などを見据え、将来の変化と発展が期待される岐阜県のシンボリックな存在になるよう努めていきます。

※今後の新型コロナウイルス感染症の状況に応じ、適宜、事業進捗管理を行い、見直しを検討することとします。

(参考)

○公園運営のイメージパース

○アンケート調査結果

(花フェスタ記念公園、ぎふ清流里山公園、養老公園、世界淡水魚園)

○収容キャパのシミュレーション

(花フェスタ記念公園、ぎふ清流里山公園、養老公園、世界淡水魚園)

○公園運営のイメージパース

①健康活動



②食 (キッチンカー)



③夜間利用 (ナイトローズ)



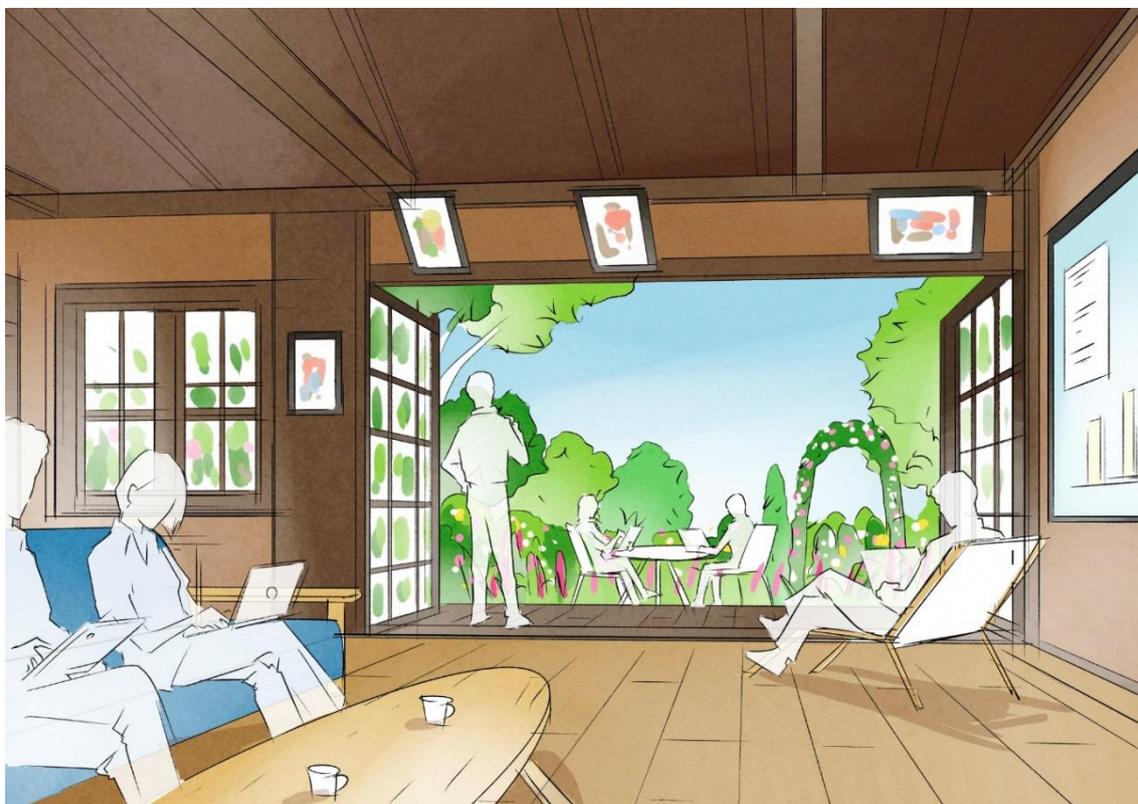
④情報発信 (デジタルサイネージ)



⑤アスレチック遊具



⑥ワーケーション



⑦食（オープンテラス）



⑧新技術の活用状況



アンケート調査結果

①調査方法

調査対象	4つの県営都市公園（花フェスタ記念公園、ぎふ清流里山公園、養老公園、世界淡水魚園）の利用者
調査方法	アンケート調査票の配布による
期間	令和2年9月～10月（各公園約1ヶ月間）
回収数	各公園400（「許容誤差」5%、「信頼水準」95%と設定し、令和元年10月の各公園の入園者数に基づき算出）

※許容誤差：母集団とランダムに抽出したサンプルとで、回答結果に生じる誤差を表す。例えば、許容誤差「はい」と答えた人が60%で許容誤差が5%の場合、母集団では55～65%が「はい」と答えると考えられる。

※信頼水準：どの程度の確率で許容誤差内の結果となるかを表す。例えば、信頼度95%の場合「100回中95回は許容誤差内の結果に収まる」ことを示す。

アンケート調査票

表面

県営4つの都市公園 利用者アンケート調査

設問1. あなたの年齢は？（1つに○）

1. ～29歳	2. 30～31歳	3. 40～49歳	4. 50～64歳
5. 65～69歳	6. 70～74歳	7. 75～79歳	8. 80歳以上

設問2. 同伴者の人数と年齢は？（空欄に数字を記入）

年齢	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	同伴者なし
人数									

設問3. お住いの住所は？（1つに○）

1. 岐阜県内（市町村名）) 2. 岐阜県外（都道府県名）)

設問4. 本日の利用交通機関は？（複数選択可）

1. 徒歩・自転車 2. 自家用車 3. バイク 4. 路線バス 5. 鉄道
6. 観光バス 7. タクシー 8. その他 ()

設問5. 本日の滞在(予定)時間は？（1つに○）

1. 1時間未満	2. 1時間～2時間未満	3. 2時間～3時間未満
4. 3時間～5時間未満	5. 5時間以上・1日中	6. 不明・未定

設問6. 本日の園内で使う予定(使った)金額の総額は？（1つに○、同伴者含む・入園料除く）

1. 1,000円未満	2. 1,000円～3,000円未満	3. 3,000円～5,000円未満
4. 5,000円～10,000円未満	5. 1万円以上	6. 不明・未定
7. 使わない		

設問7. 本日、本公園以外に立ち寄った施設・立ち寄る予定の施設をご記入ください

1. 立ち寄った施設	
2. 立ち寄る予定の施設	

設問8. 本公園を利用する際の目的は？（複数選択可）

1. 季節の花・木の鑑賞 2. 休憩 3. 家族や親しい人との団らん
4. イベント等の催し 5. 子どもの付添い 6. 散歩、ウーキング、ジョギング
7. スポーツ 8. ボランティア活動 9. 野鳥・魚等の生き物観察
10. その他 ()

設問9. 本公園の満足度は？（1つに○）

1. 大変満足 2. 満足 3. やや不満 4. 不満 5. どちらとも言いえない

裏面に続きます

裏面

設問10. 設問9でやや不満・不満と回答した理由は？（複数選択可）

1. 清掃や花木等の手入れが不十分	2. 施設・設備が古い
3. 利用料金が高額	4. トイレや休憩スペースが少ない
5. 職員への対応が悪い	6. 魅力的な施設・イベントがない
7. その他 ()	

設問11. 4つの公園の利用頻度に該当する選択肢の番号をご記入ください

花フェスタ記念公園	ぎふ清流里山公園	養老公園	世界淡水魚園
1. 初めて	2. 週に1回以上	3. 月に1回以上	4. 年に数回
5. 多くて年に1回	6. 利用したことがない	7. わからない	

設問12. 今後の公園の取組に対して、下記の(1)～(3)の各項目について、公園ごとに、最も優先してほしい選択肢を最大3つまで選び、番号をご記入ください

	花フェスタ記念公園	ぎふ清流里山公園	養老公園	世界淡水魚園
(1) 公園の魅力づくりに関する取組み				
(2) 公園の施設・空間づくり				
(3) その他				

(1) 公園の魅力づくりに関する取組み（ソフト）

1. 利用料金の値下げ 2. イベントや催しの充実
3. 体験学習機会の拡充 4. 高速道路やバス・鉄道と連携した特典
5. 託児サービス 6. イベントや物販等のPR強化
7. その他 ()

(2) 公園の施設・空間づくり（ハード）

1. オシャレな飲食店・物販店の充実 2. 遊具や遊び場の充実
3. 季節毎の一面の花畑（花壇） 4. 展望台・テラスの設置
5. インスタ映えするスポットの整備 6. 施設の再整備（施設名：)
7. その他 ()

(3) その他

1. 地域住民や公園周辺施設との連携 2. 共催イベント等4つの公園の連携
3. 歴史・文化等の地域資源の活用 4. 清掃や花・植物等の管理の強化
5. 無料Wi-Fiの整備 6. 公園コンシェルジュ（案内人）の育成
7. その他 ()

設問13. その他に意見等ありましたら、以下にご記入ください

以上でアンケートは終わりです。ご協力、ありがとうございました。

②結果総括

(1) 4公園に共通する傾向は以下の通り

- ①来園目的は散歩、ウォーキング、ジョギングが多い。
- ②来園経験の有無について、4公園全ての利用経験があるのは15%前後である。
- ③公園に求める取組みは、イベントや催しの充実、オシャレな飲食店・物販店等の充実、遊具や遊び場の充実を求める意見が多い。
- ④県内からの来園者の内、飛騨地方からの来園者は少ない。
- ⑤来園者は自家用車が大多数を占める。
- ⑥消費額は1,000円～3,000円が多い。
- ⑦来園前後に他の施設に立ち寄る割合は10%前後である。

(2) 公園別の傾向は以下の通り

公園名	花フェスタ 記念公園	ぎふ清流 里山公園	養老公園	世界 淡水魚園	
散歩・ウォーキング・ジョギング目的の来園	37.8% ※季節の花・木の鑑賞が90.3%	51.8%	17.5% ※子どもの付添いが44.3%	32.5%	
来園者の評価	秋のバラまつりに対する満足度が低い	来園者の満足度は概ね高い	来園者の満足度が非常に高い	来園者の満足度が非常に高い	
来園者特性	・高齢者の割合が高い ・県外からの来園割合が高い	・高齢者の割合が高い ・県内からの来園割合が高い	・子育て世代の割合が高い ・県内からの来園割合が高い	・子育て世代の割合が高い ・県外からの来園割合が高い	
滞在特性	平均滞在時間	約2時間26分 ※1時間未満が2.8%と4公園中で最小	約1時間46分 ※1時間未満が23.5%と4公園中で最多	約2時間21分	約2時間9分
	平均消費金額	約2,570円/組	約2,046円/組	約1,765円/組	約2,235円/組
	消費金額が1,000～3,000円の割合	42.4% ※0円が6.7%、3,000円以上が30.1%と、4公園中で最多	42.0%	43.6%	41.7%
他施設への立寄り	来園前：6.8% 来園後：19.3%	来園前：11.3% 来園後：4.0%	来園前：7.8% 来園後：9.5%	来園前：7.8% 来園後：11.0%(郡上・飛騨地方が2.8%)	
※同日の来園者は1.5%					

- ・花フェスタ記念公園：既設の花木の鑑賞を目的に来園する、県外からの来園者や高齢者を中心に、滞在時間も長く消費金額も大きい。
- ・ぎふ清流里山公園：県内の高齢者の利用が中心。散歩・ウォーキング・ジョギング目的が中心のため、滞在時間は比較的短い。
- ・養老公園：県内からの来園者や子育て世代の来園が中心。比較的滞在時間が長く、満足度も高い。
- ・世界淡水魚園：県外からの来園者や子育て世代の来園者が中心。滞在時間は比較的短く、郡上・飛騨地方へ訪れる際に立ち寄る利用も多い。

③設問ごとの集計結果

1. 来園者の年齢構成

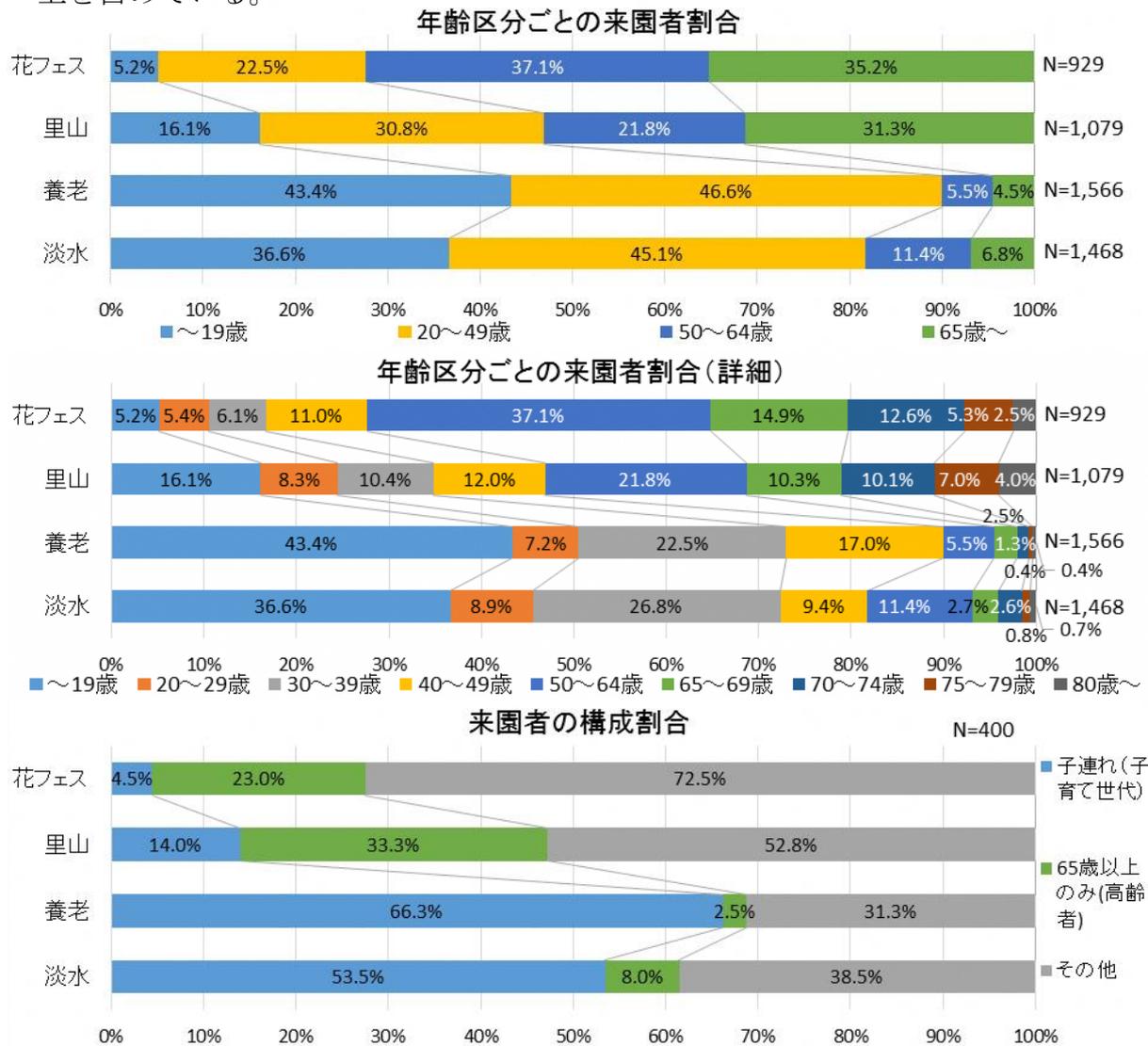
設問1. あなたの年齢は？（1つに○）

1. ~29歳	2. 30~31歳	3. 40~49歳	4. 50~64歳
5. 65~69歳	6. 70~74歳	7. 75~79歳	8. 80歳以上

設問2. 同伴者の人数と年齢は？（空欄に数字を記入）

年齢	~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~64歳	65~69歳	70~74歳	75~79歳	80歳以上	同伴者なし
人数										

- ・花フェスタ記念公園及びぎふ清流里山公園は、来園者に占める高年層の割合が大きい。2公園とも65歳以上が1/3程度を占めており、特にぎふ清流里山公園の来園者の構成割合は、65歳以上のみが1/3を占めており、他と比べて非常に大きい。
- ・養老公園及び世界淡水魚園は、来園者に占める若年層の割合が大きい。2公園とも、19歳以下が1/3以上を占めており、来園者の構成は子連れ（子育て世代）が半数以上を占めている。



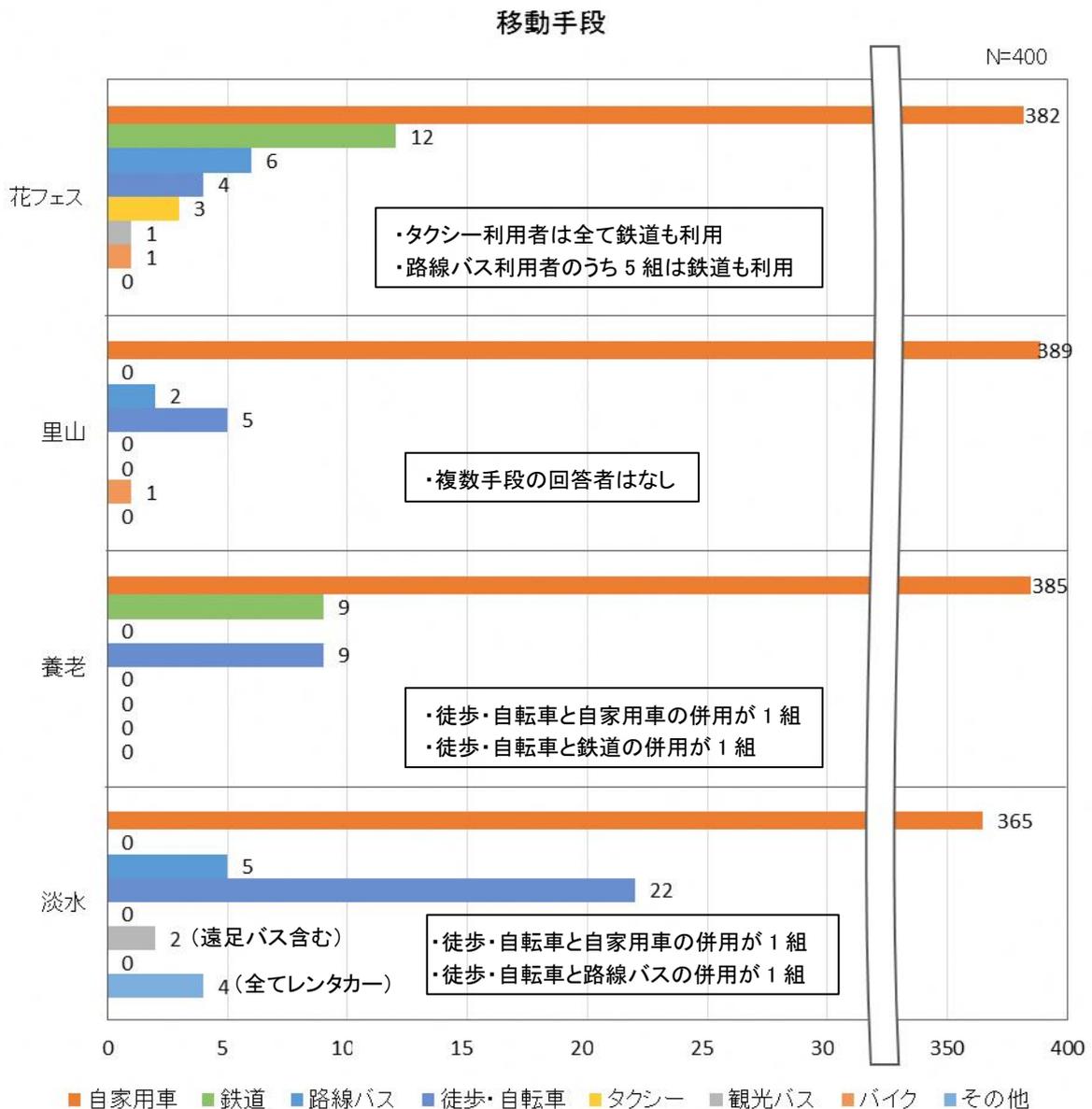
※子育て世代：同伴者に19歳以下が1名以上かつ50歳以上が0名、高齢者：同伴者が65歳以上のみ

3. 公園までの移動手段

設問4. 本日の利用交通機関は？（複数選択可）

- | | | | | | |
|-----------|---------|---------|---------|-------|--|
| 1. 徒歩・自転車 | 2. 自家用車 | 3. バイク | 4. 路線バス | 5. 鉄道 | |
| 6. 観光バス | 7. タクシー | 8. その他（ | ） | | |

- ・公園までの移動手段は、いずれの公園も【自家用車】が大半を占めており、公共交通機関を利用しての来園者は少ない。
- ・花フェスタ記念公園及び養老公園については、【鉄道】を利用する来園者もあり、花フェスタ記念公園では【タクシー】や【路線バス】との併用が多い。

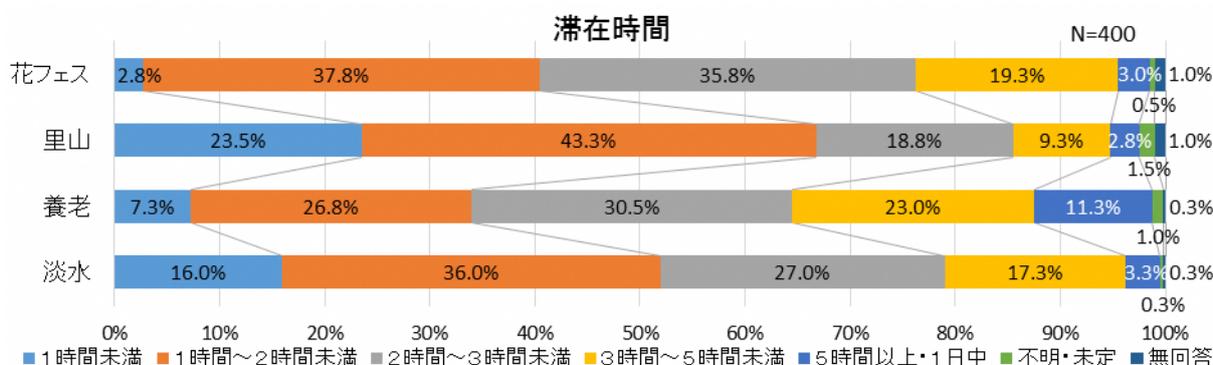


4. 滞在時間

設問5. 本日の滞在(予定)時間は？(1つに○)

1. 1時間未満	2. 1時間～2時間未満	3. 2時間～3時間未満
4. 3時間～5時間未満	5. 5時間以上・1日中	6. 不明・未定

- ・花フェスタ記念公園は、入場料金が必要ということもあり、他の公園と比べ滞在時間が1時間未満の占める割合が小さいが、5時間以上・1日中の占める割合は他の公園と変わらない。
- ・養老公園は5時間以上・1日中の占める割合が10%を超えており、約3%である他の公園と比べると非常に大きい。
- ・ぎふ清流里山公園及び世界淡水魚園は2時間未満の占める割合が半数を超えており、花フェスタ記念公園及び養老公園に比べ、滞在時間が短い公園と言える。

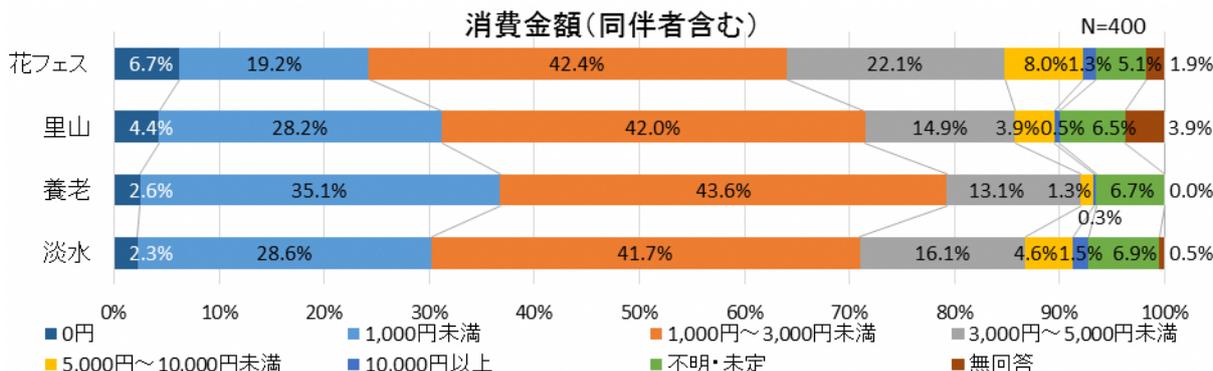


5. 消費金額

設問6. 本日の園内で使う予定(使った)金額の総額は？(1つに○、同伴者含む・入園料除く)

1. 1,000円未満	2. 1,000円～3,000円未満	3. 3,000円～5,000円未満
4. 5,000円～10,000円未満	5. 1万円以上	6. 不明・未定
7. 使わない		

- ・いずれの公園も1,000円～3,000円未満の占める割合が最も多く約40%である。
- ・花フェスタ記念公園は、0円の占める割合が4公園中で最も大きい、3,000円以上の占める割合も4公園中で最も大きい。
- ・養老公園は、3,000円未満の占める割合が4公園中で最も大きく、3,000円以上の占める割合も4公園中で最も小さい。前項の滞在時間にて、4公園中で最も滞在時間が長いと示されており、公園内での消費金額のポテンシャルは大きいと言える。
- ・世界淡水魚園は、10,000円以上の占める割合が4公園中で最も大きい。

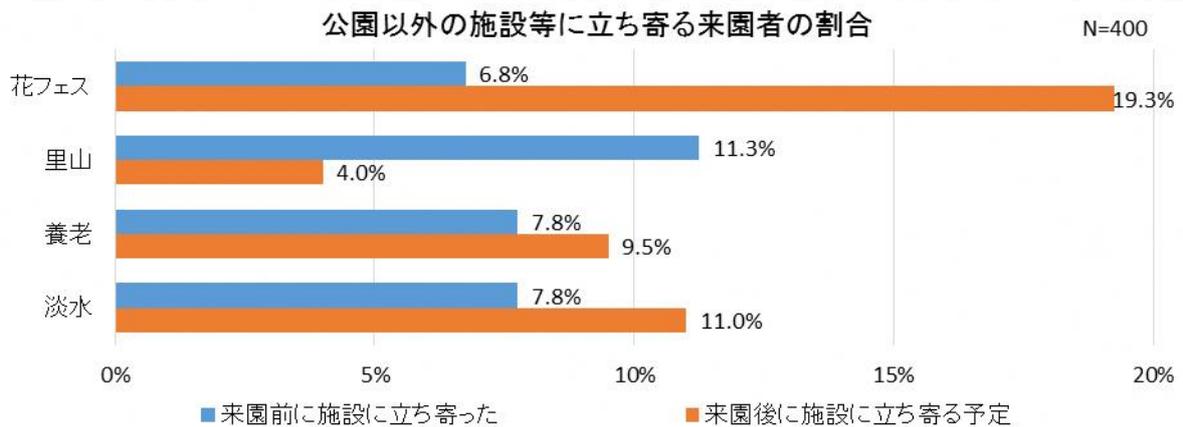


6. 公園以外の立ち寄り施設等

設問7. 本日、本公園以外に立ち寄った施設・立ち寄る予定の施設をご記入ください

1. 立ち寄った施設	
2. 立ち寄る予定の施設	

- ・花フェスタ記念公園は、他の公園に比べ来園後に他の施設に立ち寄る割合が高く、特に道の駅可児ッテへ立ち寄る来園者が多い。
- ・4公園の内、花フェスタ記念公園とぎふ清流里山公園は比較的距離が近いこともあり、同日の来園者が一定数存在する。
- ・花フェスタ記念公園、ぎふ清流里山公園、養老公園は、来園前後に食事に立ち寄る来園者が一定数いることから、公園内の飲食店を充実させることで公園内の消費が見込める。
- ・養老公園及び世界淡水魚園は、来園後に近隣のスーパーマーケットに立ち寄る来園者がおり、買い物ついでに気軽に来園できる公園であると言える。
- ・世界淡水魚園は来園後に郡上・飛騨地方へ訪れる来園者が多く、岐阜県の玄関口と言える役割を担っている。



主な立寄り施設 (【】内は回答数)

	花フェスタ記念公園	ぎふ清流里山公園	養老公園	世界淡水魚園
来園前	恵那川上屋【6】	マリOTTホテル【12】	食事【3】	フラワーパーク江南【3】
	道の駅可児ッテ【7】	道の駅半布の郷【4】		138タワーパーク【3】
		花フェスタ記念公園【6】		自然発見館
		郡上・飛騨地方【5】		イオンモール各務原【4】
来園後	恵那川上屋【8】	カフェ【3】	肉屋【5】	138タワーパーク【9】
	道の駅可児ッテ【28】			養老温泉【3】
	ぎふ清流里山公園【6】			スーパーマーケット【6】
	明智城跡【4】			食事(焼肉等)【13】
	土岐プレミアムアウトレット【6】			ショッピングモール(イオンモール各務原除く)【7】
	食事【5】			

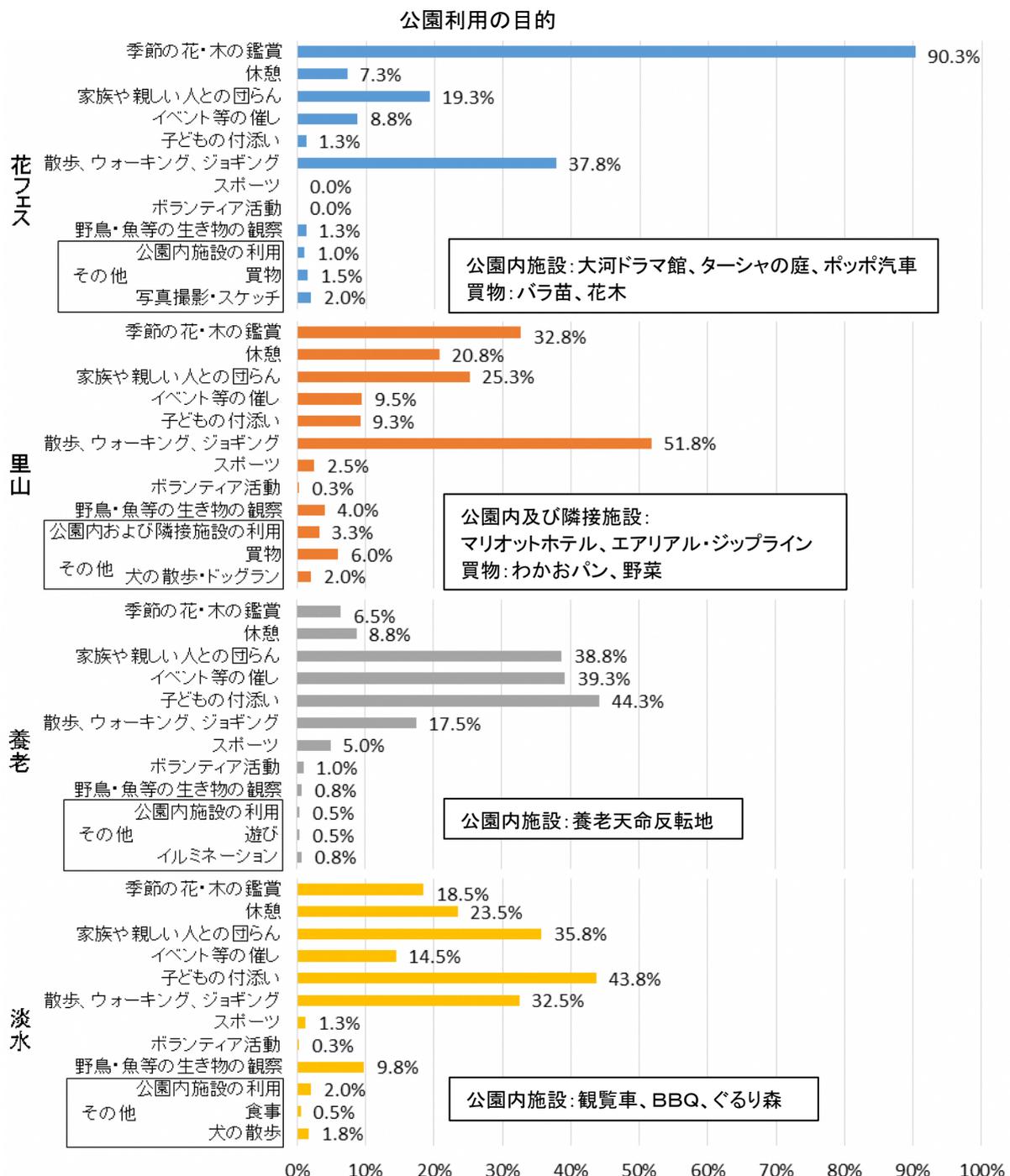
※3 以上の回答があった施設のみを記載(コンビニ除く)

7. 公園利用の目的

設問8. 本公園を利用する際の目的は？（複数選択可）

- | | | |
|--------------|-------------|--------------------|
| 1. 季節の花・木の鑑賞 | 2. 休憩 | 3. 家族や親しい人との団らん |
| 4. イベント等の催し | 5. 子どもの付添い | 6. 散歩、ウォーキング、ジョギング |
| 7. スポーツ | 8. ボランティア活動 | 9. 野鳥・魚等の生き物観察 |
| 10. その他（ | | ） |

- ・いずれの公園も【散歩、ウォーキング、ジョギング】の回答数が多く、30%を超える。
- ・養老公園及び世界淡水魚園は【子どもの付添い】の回答数が最も多く 40%を超えるが、花フェスタ記念公園及びぎふ清流里山公園は同回答が 10%以下であり、利用目的が大きく異なる。



8. 満足度

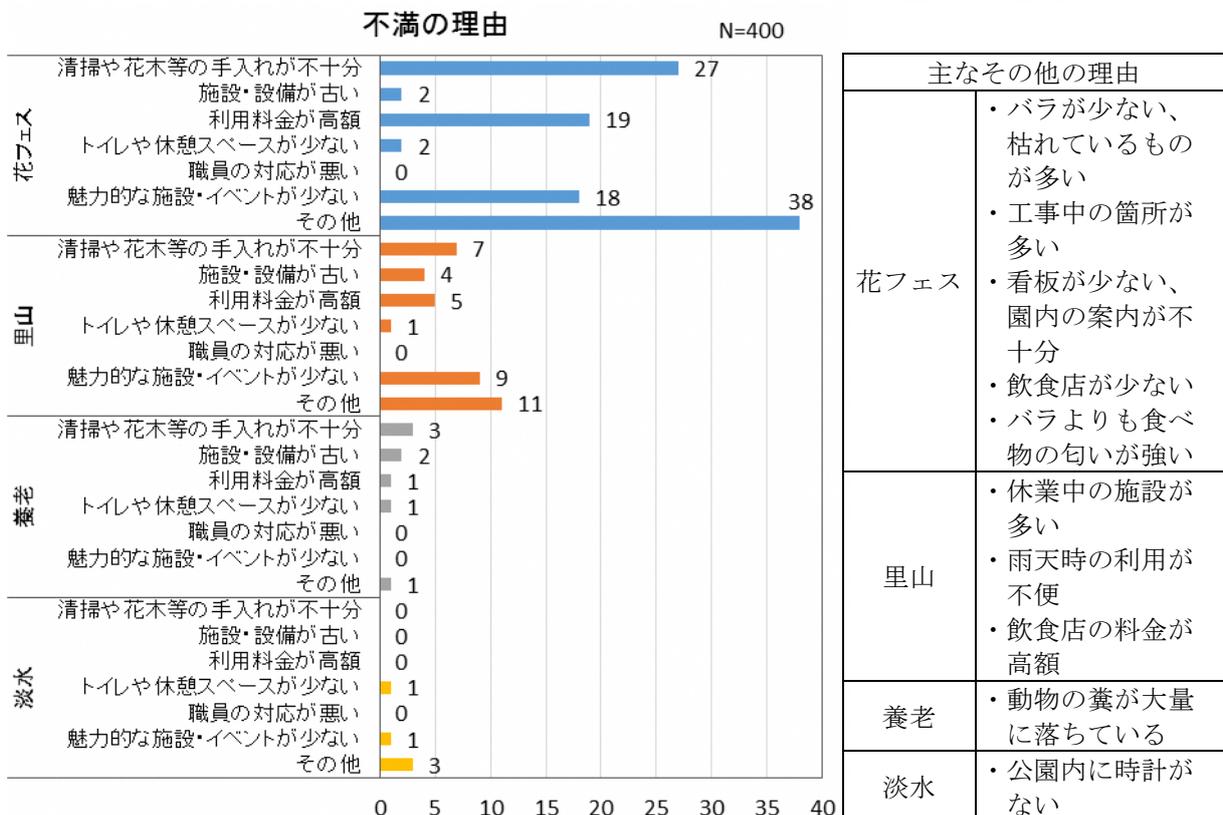
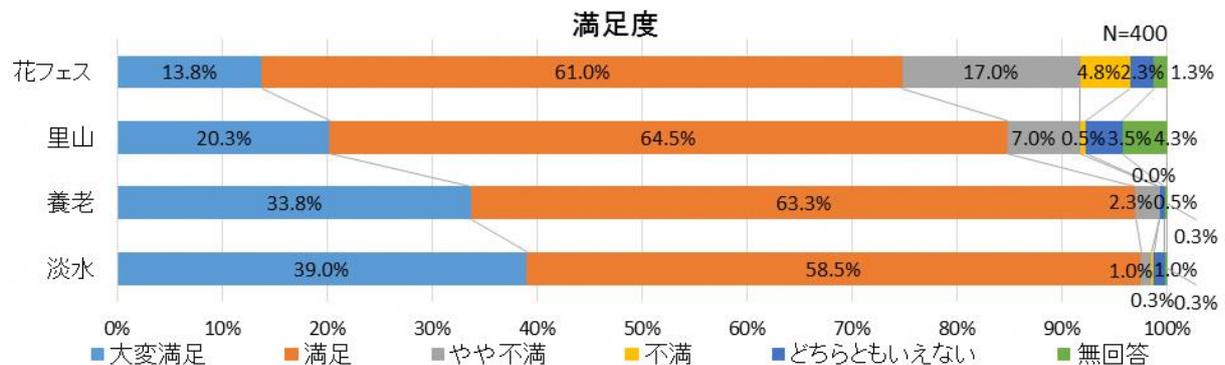
設問9. 本公園の満足度は？（1つに○）

1. 大変満足 2. 満足 3. やや不満 4. 不満 5. どちらともいえない

設問10. 設問9でやや不満・不満と回答した理由は？（複数選択可）

1. 清掃や花木等の手入れが不十分 2. 施設・設備が古い
 3. 利用料金が高額 4. トイレや休憩スペースが少ない
 5. 職員の対応が悪い 6. 魅力的な施設・イベントがない
 7. その他（ ）

- ・養老公園及び世界淡水魚園は満足度が高く、【大変満足・満足】の合計割合が95%を超えており、【やや不満・不満】の合計割合が2%程度である。
- ・花フェスタ記念公園は、4公園中で最も【やや不満・不満】の合計割合が高く20%を超えている。理由としては、アンケート調査時に開催されていた、秋バラまつりに起因している意見が多く、花の手入れ・管理を強化する必要があると言える。利用料金の見直しや、魅力的なイベントの開催・施設の整備も求められている。

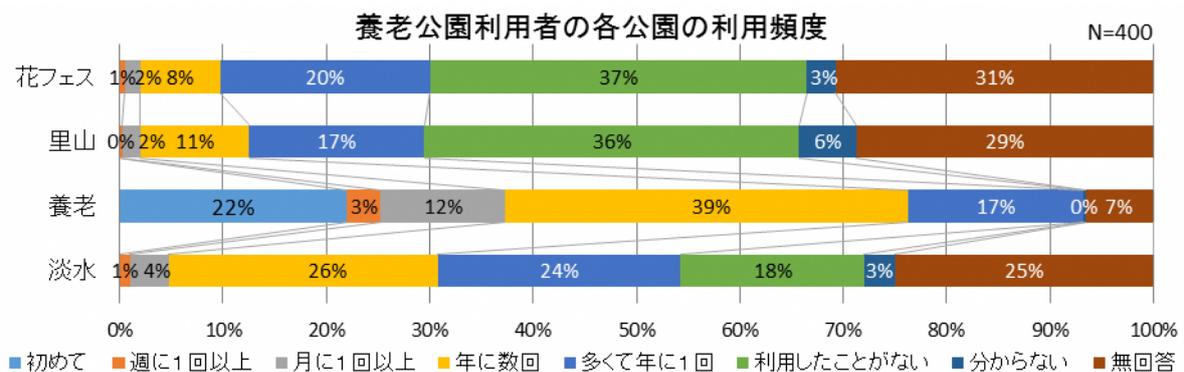
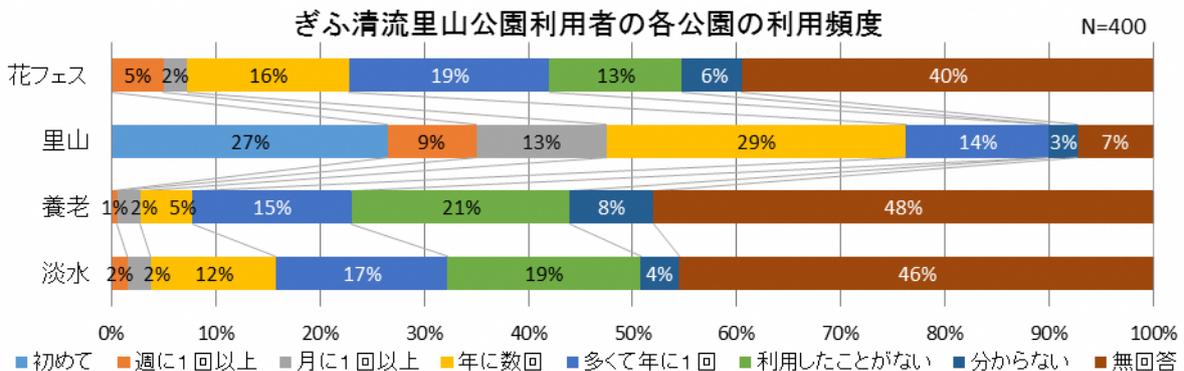
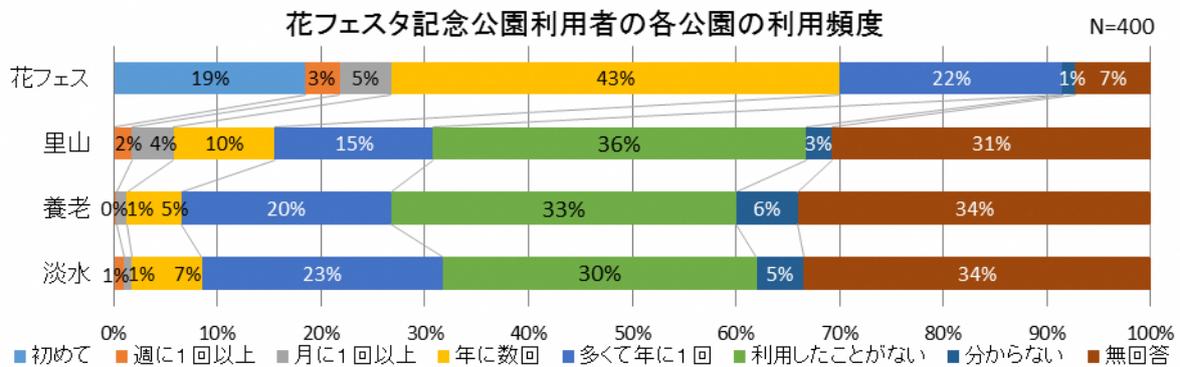


9. 利用頻度・利用の有無

設問11. 4つの公園の利用頻度に該当する選択肢の番号をご記入ください

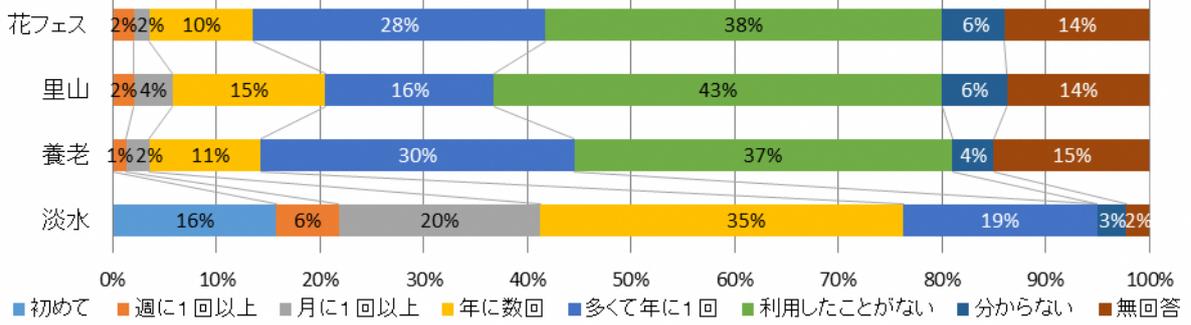
花フェスタ 記念公園	ぎふ清流 里山公園	養老公園	世界淡水魚園
1. 初めて	2. 週に1回以上	3. 月に1回以上	4. 年に数回
5. 多くて年に1回	6. 利用したことがない	7. わからない	

- いずれの公園も利用頻度は、【年に数回程度】の占める割合が最も大きい。
- 該当公園以外を【利用したことがない】割合は、花フェスタ記念公園や世界淡水魚園で高い傾向にあり、前出（2項）より県外からの来園者が多い公園であることが分かる。
- 4公園とも利用したことがあるのは、いずれの公園においても10%～20%程度である。
- 当該公園以外を利用したことがある割合は、いずれの公園も半数以下である。



世界淡水魚園利用者の各公園の利用頻度

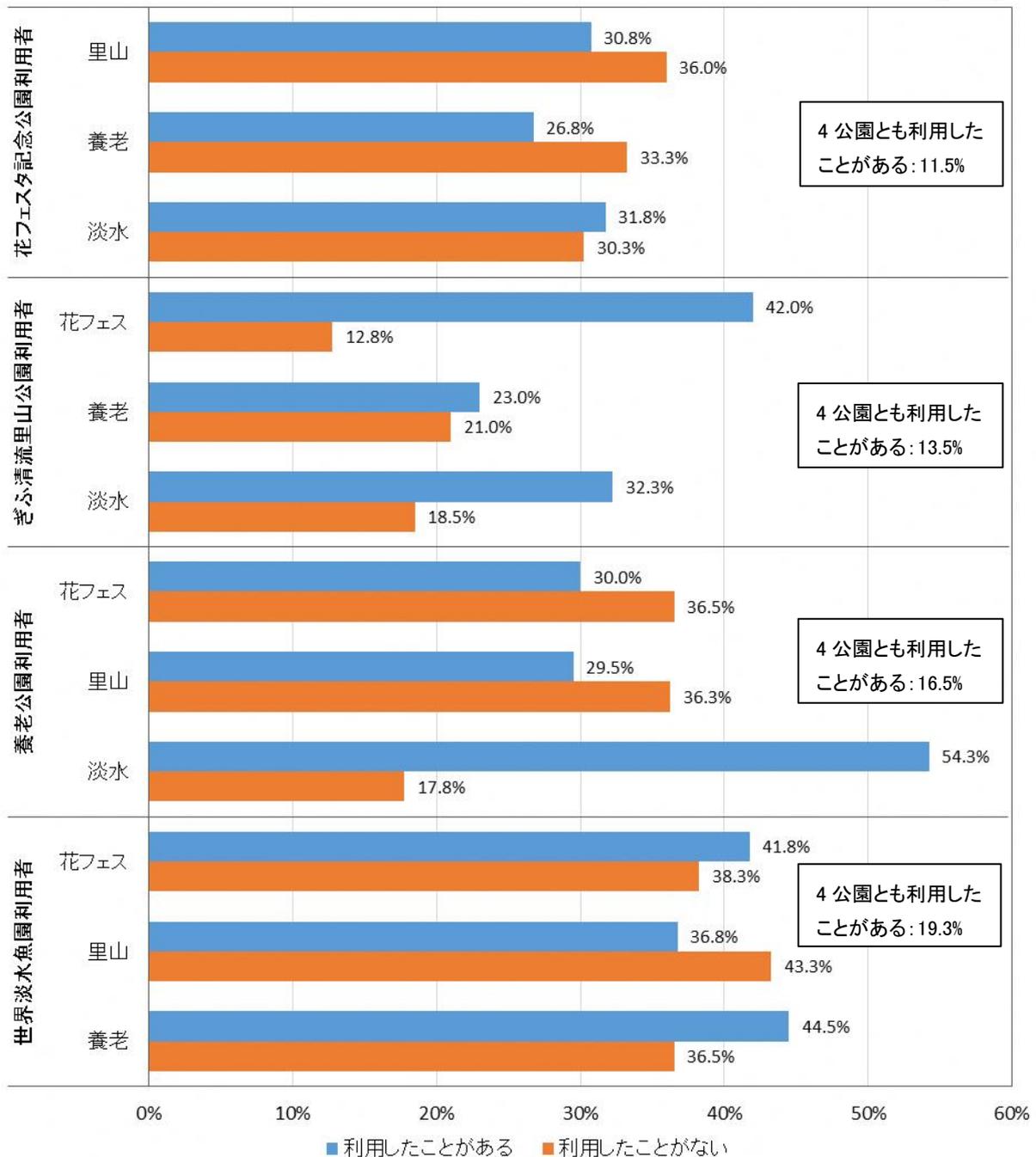
N=400



※アンケート実施公園に対して【利用したことがない】の回答は【初めて】、アンケート実施公園以外に対して【初めて】の回答は【利用したことがない】として集計

各公園の利用の有無

N=400



10. 公園に求める取組み

設問12. 今後の公園の取組に対して、下記の(1)～(3)の各項目について、公園ごとに、最も優先してほしい選択肢を最大3つまで選び、番号をご記入ください

	花フェスタ 記念公園	ぎふ清流 里山公園	養老公園	世界淡水魚園
(1) 公園の魅力づくりに関する取組み				
(2) 公園の施設・空間づくり				
(3) その他				

(1) 公園の魅力づくりに関する取組み (ソフト)

- | | |
|--------------|----------------------|
| 1. 利用料金の値下げ | 2. イベントや催しの充実 |
| 3. 体験学習機会の拡充 | 4. 高速道路やバス・鉄道と連携した特典 |
| 5. 託児サービス | 6. イベントや物販等のPR強化 |
| 7. その他() | |

(2) 公園の施設・空間づくり (ハード)

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. オシャレな飲食店・物販店の充実 | 2. 遊具や遊び場の充実 |
| 3. 季節毎の一面の花畑(花壇) | 4. 展望台・テラスの設置 |
| 5. インスタ映えするスポットの整備 | 6. 施設の再整備(施設名:) |
| 7. その他() | |

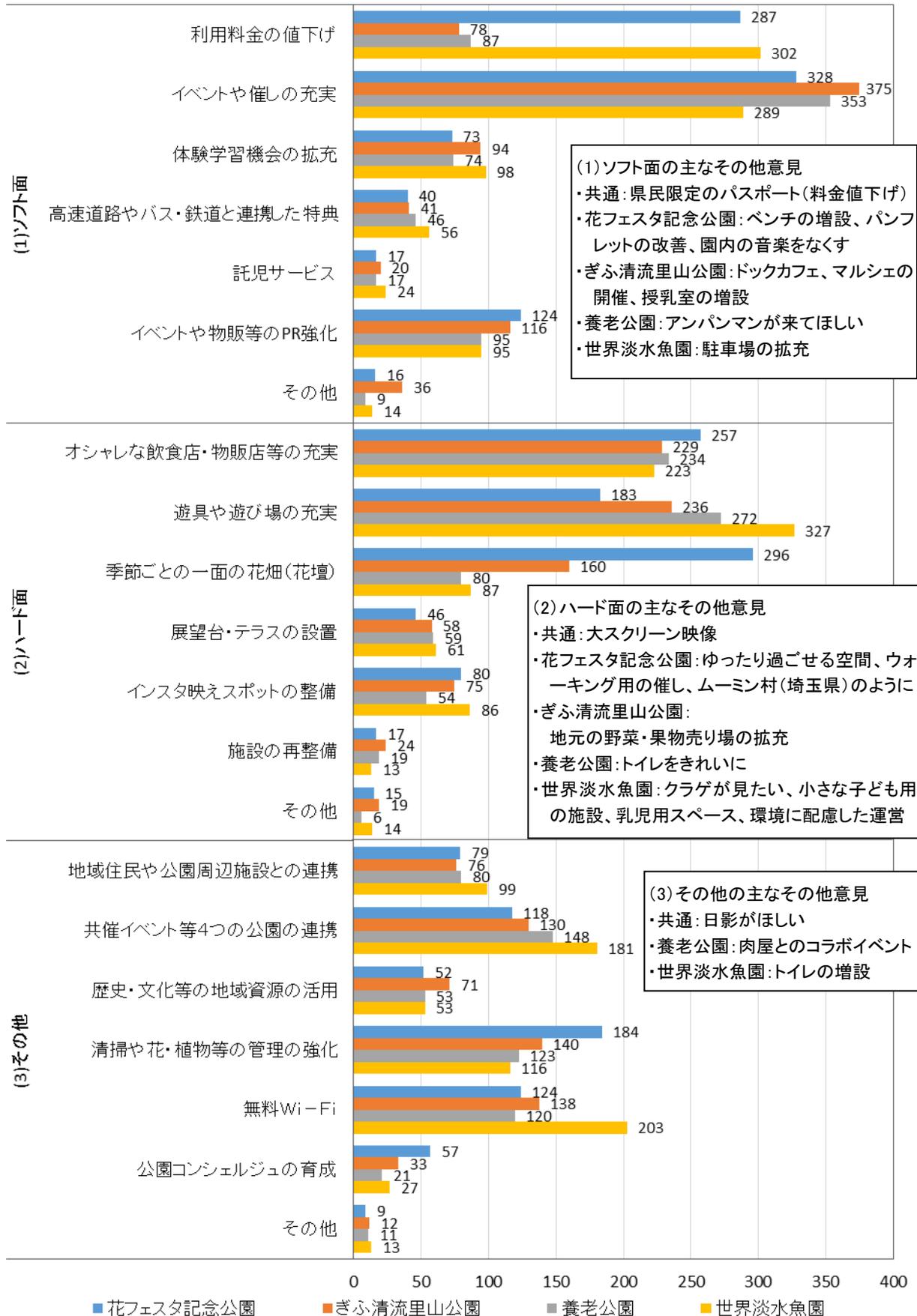
(3) その他

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1. 地域住民や公園周辺施設との連携 | 2. 共催イベント等4つの公園の連携 |
| 3. 歴史・文化等の地域資源の活用 | 4. 清掃や花・植物等の管理の強化 |
| 5. 無料Wi-Fiの整備 | 6. 公園コンシェルジュ(案内人)の育成 |
| 7. その他() | |

- ・ソフト面では【イベントや催しの充実】を求める意見が多く、花フェスタ記念公園や世界淡水魚園では【利用料金の値下げ】も求められている。一方、【託児サービスの充実】を求める意見は少ない。
- ・ハード面では【オシャレな飲食店・物販店等の充実】、【遊具や遊び場の充実】を求める意見が多く、花フェスタ記念公園やぎふ清流里山公園では【季節ごとの一面の花畑(花壇)】も求められている。一方、【施設の再整備】を求める意見は少ない。
- ・その他では【共催イベント等4つの公園の連携】、【清掃や花・植物等の管理の強化】、【無料Wi-Fiの整備】を求める意見が多い。一方、【公園コンシェルジュの育成】やぎふ清流里山公園を除いて【歴史・文化等の地域資源の活用】を求める意見は少ない。

公園に求める取組み

N=各公園400



○収容キャパのシミュレーション

①最大集客数の実績（平成 31 年度）

	花フェス	里山	養老	淡水	備考
最大入園者数	11,782 人	13,926 人	32,820 人	6,089 人	淡水は水族館の値。国営部分を含むと 44,529 人(9/15(日)3 連休の中日)
	5/25(土)、春のバラまつり期間	5/5(日) GW 期間	5/2(祝) GW 期間	7/14(日) 3 連休の中日	

②最大集客可能数

	花フェス	里山	養老	淡水	備考
オープンスペース面積	41,900 m ²	198,800 m ²	148,600 m ²	17,240 m ²	淡水は都市公園部分に限る
同時最大集客人数	4,190 人	19,880 人	14,860 人	1,724 人	オープンスペース÷10 m ² /人 ^{※2}
開園時間	夏季:8 時間 冬季:7 時間	8 時間	8 時間	7.5 時間	国営部分は夏季:13 時間、その他:11.5 ~12.5 時間
滞在時間 ^{※1}	2 時間	2 時間	2 時間	2 時間	
日当たり最大集客可能人数	夏季:16,760 人 冬季:14,665 人	79,520 人	59,440 人	6,465 人	同時最大収容人数×開園時間÷滞在時間

※1 改訂第 4 版大規模公園費用対効果分析手法マニュアル(国土交通省 都市局 公園緑地・景観課、平成 29 年 4 月)より

※2 都市公園法運用指針(第 3 版)(国土交通省 都市局 平成 29 年 6 月)の、住民一人当たりの都市公園面積の標準より

③駐車場の状況

	花フェス	里山	養老	淡水	備考
駐車場台数	1,700 台 (西:1,000 台 東:700 台)	2,500 台 大型バス:50 台	821 台 (無料:521 台 有料:300 台)	一般道:1,096 台 (中央駐車場: 496 台) 高速道:308 台, バス 27 台	淡水は国営部分を含む
来園客の自家用車利用割合	95.5%	97.3%	96.3%	91.3%	アンケート調査結果より算出
来園客 1 組当たり人数	2.3 人	2.7 人	3.9 人	3.7 人	
H31 年度の最大入園者数時に必要な駐車場台数	1,223 台 駐車場が充足	1,255 台 駐車場が充足	2,026 台 駐車場が不足	2,028 台 駐車場が不足	H31 最大入園者数÷開園時間×滞在時間×自家用車利用割合÷1 組当たり人数

清流の国ぎふ憲章

～ 豊かな森と清き水 世界に誇れる 我が清流の国 ～

岐阜県は、古来、山紫水明の自然に恵まれ、世界に誇る伝統と文化を育んできました。豊かな森を源とする「清流」は、県内をあまねく流れ、里や街を潤しています。そして、「心の清流」として、私たちの心の奥底にも脈々と流れ、安らぎと豊かさをもたらしています。

私たちの「清流」は、飛騨の木工芸、美濃和紙、関の刃物、東濃の陶磁器など匠の技を磨き、千有余年の歴史を誇る鶉飼などの伝統文化を育むとともに、新たな未来を創造する源になっています。

私たち岐阜県民は、「清流」の恵みに感謝し、「清流」に育まれた、自然・歴史・伝統・文化・技をふるさとの宝ものとして、活かし、伝えてまいります。

そして、人與人、自然と人との絆を深め、世代を超えた循環の中で、岐阜県の底力になり、100年、200年先の未来を築いていくため、ここに「清流の国ぎふ憲章」を定めます。

「清流の国ぎふ」に生きる私たちは、

知

清流がもたらした

自然、歴史、伝統、文化、技を知り学びます

創

ふるさとの宝ものを磨き活かし、

新たな創造と発信に努めます

伝

清流の恵みを新たな世代へと守り伝えます

平成 26 年 1 月 31 日 「清流の国ぎふ」づくり推進県民会議